

2026年度（令和8年度）

授 業 計 画

（シラバス）

長野救命医療専門学校
柔道整復師学科

医療職業実践専門課程											
柔道整復師学科											
一般専門の別	教育内容	科目名	講義・実習の別	授業時間数及び単位数							
				1 年次		2 年次		3 年次		合計	
				時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と人間生活	科学(基礎)	講義	60	4					60	4
		科学(応用)	講義	60	4					60	4
		英語	講義	60	4					60	4
		体育	実習	60	2					60	2
	小 計			240	14	0	0	0	0	240	14
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	講義	90	3					90	3
		解剖学Ⅱ	講義			90	3			90	3
		生理学Ⅰ	講義	90	3					90	3
		生理学Ⅱ	講義			60	2			60	2
		高齢者、競技者生理学的特徴	講義			60	2			60	2
		運動学	講義	60	2					60	2
	疾病と傷害	病理学概論	講義			60	2			60	2
		一般臨床医学	講義			60	2			60	2
		外科学概論	講義					60	2	60	2
		整形外科	講義					60	2	60	2
		リハビリ	講義			60	2			60	2
		衛生・公衆衛生学	講義	60	2					60	2
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応	講義			60	2			60	2
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	柔道Ⅰ	講義	60	2					60	2
		柔道Ⅱ	講義			60	2			60	2
		柔道Ⅲ	講義					30	1	30	1
		関係法規	講義					60	2	60	2
		職業倫理	講義	30	1					30	1
	社会保障制度	社会保障制度	講義					30	1	30	1
	小 計			390	13	510	17	240	8	1140	38
専門分野	基礎柔道整復学	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	120	4					120	4
		基礎柔道整復学Ⅱ	講義					150	5	150	5
		外傷保存療法経過、治癒	講義			30	1			30	1
	臨床柔道整復学	柔道整復学各論Ⅰ	講義			60	2			60	2
		柔道整復学各論Ⅱ	講義			60	2			60	2
		柔道整復学各論Ⅲ	講義			60	2			60	2
		物理療法機器等の取り扱い	講義	30	1					30	1
		臨床的判定（画像診断）	講義			60	2			60	2
		臨床柔道整復学	講義					240	8	240	8
		包帯実技	実技	30	1	30	1			60	2
	柔道整復実技	柔道整復実技Ⅰ	実技	120	4					120	4
		柔道整復実技Ⅱ	実技			150	5			150	5
		柔道整復実技Ⅲ	実技					120	4	120	4
		高齢者、競技者の外傷予防臨床 実習前試験	講義					60	2	60	2
	臨床実習	臨床実習	実習	90	2	90	2			180	4
	小 計			390	12	540	17	570	19	1500	48
合 計			1020	39	1050	34	810	27	2880	100	

	科目名	講義・実習の別	授業時間数			
			1 年次	2 年次	3 年次	合計
			時間	時間	時間	時間
選択科目	山岳救命コース（講義）	講義		30		30
	山岳救命コース（登山実習）	実習		30		30
	国家試験対策講座	講義	30	60	360	450
	小 計		30	120	360	510

授 業 計 画

(2026年度)

柔道整復師学科 1年生

授業科目 区 分	基礎	担当科目	科学(基礎)		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	(前期)中村哲也、(後期)師岡さとみ			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	木曜日	3 時限	講義室等	(前期)パソコン室、(後期)1年教室			
	後期	木曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
・基本的な教養を学ぶことで、柔道整復師にとって臨床に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。 ・数学的なものの考え方を身に付けることで、理論的な思考能力を高め、広い視野で物事をとらえる力を養う。				定期試験(筆記試験)				
教科書	【前期】公務員テキスト「判断推理・資料解釈」 【後期】公務員テキスト「自然科学」			参考書				
履修上の 注意事項	わからないところは積極的に質問すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	判断推理(1) 第2章 暗号①			第1回	化学(1) 物質の構造①			
第2回	判断推理(2) 第2章 暗号②			第2回	化学(2) 物質の構造②			
第3回	判断推理(3) 第3章 命題・論理①			第3回	化学(3) 物質の構造③			
第4回	判断推理(4) 第4章 命題・論理①			第4回	化学(4) 物質の構造④、酸・塩基			
第5回	判断推理(5) 第10章 位置①			第5回	化学(5) 酸化還元			
第6回	判断推理(6) 第10章 位置②			第6回	生物(1) 細胞の構造			
第7回	判断推理(7) 第11章 方位①			第7回	生物(2) 遺伝の仕組みと遺伝子の本体①			
第8回	判断推理(8) 第11章 方位②			第8回	生物(3) 遺伝の仕組みと遺伝子の本体②			
第9回	判断推理(9) 第13章 魔方陣①			第9回	生物(4) 遺伝の仕組みと遺伝子の本体③			
第10回	判断推理(10) 第13章 魔方陣②			第10回	生物(5) 遺伝の仕組みと遺伝子の本体④			
第11回	判断推理(11) 第13章 道順①			第11回	生物(6) 動物の恒常性と調節①			
第12回	判断推理(12) 第13章 道順②			第12回	生物(7) 動物の恒常性と調節②			
第13回	判断推理(13) 第15章 手順			第13回	生物(8) 動物の恒常性と調節③			
第14回	判断推理(14) 第16章 曜日			第14回	生物(9) 神経系の発達			
第15回	前期のまとめ 定期試験対策			第15回	後期のまとめ 定期試験対策			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	科学(応用)		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	高崎 政久			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	月曜日	2時限	講義室等	パソコン室			
	後期	月曜日	2時限	授業形式	実技			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
柔道整復師に必要な情報処理の知識と技術を習得し、実務で応用できる力を身に付ける。また、プレゼンテーション技術を習得し、国家試験や就職試験に必要なコミュニケーション能力を身に付ける。					課題の達成度と発表評価			
教科書	よくわかる Word2021 & Excel2021 & PowerPoint2021			参考書	よくわかる Word2021 & Excel2021 スキルアップ問題集(操作マスター編)			
履修上の 注意事項	課題は毎回授業時間内での評価になるので、欠席すると成績評価で減点となる。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	Word(1) 文字入力			第1回	Excel(1) データの入力			
第2回	Word(2) コラム作成①			第2回	Excel(2) 表の書式設定			
第3回	Word(3) コラム作成②			第3回	Excel(3) 計算式・関数①			
第4回	Word(4) 表現力のある文書作成			第4回	Excel(4) 計算式・関数②			
第5回	Word(5) 表のある文書作成			第5回	Excel(5) 計算式・関数③			
第6回	PowerPoint(1) スライドの作成			第6回	Excel(6) 計算式・関数④			
第7回	PowerPoint(2) 図表の挿入、情報収集			第7回	Excel(7) グラフ①			
第8回	PowerPoint(3) 資料の作成①			第8回	Excel(8) グラフ②			
第9回	PowerPoint(4) 資料の作成②			第9回	Excel(9) オブジェクトの挿入、編集			
第10回	PowerPoint(5) 個人発表①			第10回	Excel(10) データベース①			
第11回	PowerPoint(6) 個人発表②			第11回	Excel(11) データベース②			
第12回	PowerPoint(7) 資料の作成③			第12回	Excel(12) ピボットテーブル			
第13回	PowerPoint(8) 資料の作成④			第13回	Excel(13) ドリル①			
第14回	PowerPoint(9) 個人発表③			第14回	Excel(14) ドリル②			
第15回	PowerPoint(10) 個人発表④			第15回	Excel(15) ドリル③			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	英語		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	福澤 稔			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	水曜日	4 時限	講義室等	1年教室			
	後期	水曜日	4 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
外国人に対して適切に英語で対応できるようにする。仕事をする際に必要な用語を英語で言えるようにする。				定期試験				
教科書	Health Talk, FIRSHAND 1			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	Taking Vital Signs 1 生命徴候を測定する(体温・脈拍・呼吸)			第16回	Introductions and personal information			
第2回	Taking Vital Signs 1 生命徴候を測定する(体温・脈拍・呼吸)			第17回	Introductions and personal information			
第3回	Taking Vital Signs 1 生命徴候を測定する(体温・脈拍・呼吸)			第18回	Introductions and personal information			
第4回	Taking Vital Signs 2 生命徴候を測定する(血圧)			第19回	Descriptions of people and families			
第5回	Taking Vital Signs 2 生命徴候を測定する(血圧)			第20回	Descriptions of people and families			
第6回	Taking Vital Signs 2 生命徴候を測定する(血圧)			第21回	Descriptions of people and families			
第7回	Rehabilitation 1 起き上がりの介助をする			第22回	Schedules and routines			
第8回	Rehabilitation 1 起き上がりの介助をする			第23回	Schedules and routines			
第9回	Rehabilitation 1 起き上がりの介助をする			第24回	Schedules and routines			
第10回	Rehabilitation2 車椅子への移動をする			第25回	Past experiences			
第11回	Rehabilitation2 車椅子への移動をする			第26回	Past experiences			
第12回	Rehabilitation2 車椅子への移動をする			第27回	Past experiences			
第13回	Foot-bath 足浴について			第28回	Entertainment and opinions			
第14回	Foot-bath 足浴について			第29回	Entertainment and opinions			
第15回	Foot-bath 足浴について			第30回	Entertainment and opinions			

授業科目 区 分	基礎	担当科目	体育		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	山崎 絵美子			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	金曜日	1 時限	講義室等	東御市第一・第二体育館			
	後期	金曜日	1 時限	授業形式	実習			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
集団で体を動かすことによって、基礎体力を維持するとともに、社会性・協調性・精神的充実感を向上させる。					出席状況と授業態度により評価する			
教科書					参考書			
履修上の 注意事項	1.授業開始10前までに体育館に直接集合し、体操着に着替えておくこと。 2.上履きを持参すること。							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション(両学科合同) 授業概要・グループ決め・ドッチボール			第16回	オリエンテーション 授業概要・グループ決め			
第2回	球技 ゲーム①			第17回	球技 ゲーム①			
第3回	球技 ゲーム②			第18回	球技 ゲーム②			
第4回	球技 ゲーム③			第19回	球技 ゲーム③			
第5回	球技 ゲーム④			第20回	球技 ゲーム④			
第6回	球技 ゲーム⑤			第21回	球技 ゲーム⑤			
第7回	球技 ゲーム⑥			第22回	球技 ゲーム⑥			
第8回	球技 ゲーム⑦			第23回	球技 ゲーム⑦			
第9回	球技 ゲーム⑧			第24回	球技 ゲーム⑧			
第10回	球技 ゲーム⑨			第25回	球技 ゲーム⑨			
第11回	球技 ゲーム⑩			第26回	球技 ゲーム⑩			
第12回	球技 ゲーム⑪			第27回	球技 ゲーム⑪			
第13回	球技 ゲーム⑫			第28回	球技 ゲーム⑫			
第14回	球技 ゲーム⑬			第29回	球技 ゲーム⑬			
第15回	球技 ゲーム⑭			第30回	球技 ゲーム⑭			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	解剖学Ⅰ		単位数	3 単位	選択 必修	必修
					時間数	90 時間		
担当教員	檜原 康之			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	土曜日	1・2 時限	講義室等	1年教室			
	後期	金曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
身体の運動器(骨格系・筋系)および脈管系の構造を系統的に学習する。「細胞・組織の特性」、「骨の構造・各部位の名称・関節の構造」、「筋の構造・各筋の起始・停止・作用・支配神経」、「心臓の構造・全身の血管」について理解し説明できることを目標とする。				定期試験(100点満点)により評価し、60点以上を合格とする。				
教科書	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版)			参考書	ネッター解剖学アトラス(南江堂) プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	解剖学概論Ⅰ 解剖学を学ぶにあたって、細胞とは			第1回	前期の復習 前期試験の解説と復習			
第2回	解剖学概論Ⅱ 組織学・発生学			第2回	上肢の筋Ⅰ 上肢帯・上腕の筋			
第3回	骨格系総論 骨の構造と機能について			第3回	上肢の筋Ⅱ 前腕の筋			
第4回	脊柱・胸郭の骨 脊椎・胸郭を構成する骨について			第4回	上肢の筋Ⅲ 手部の筋			
第5回	上肢の骨Ⅰ 肩甲骨・鎖骨・上腕骨			第5回	上肢の筋まとめ 上肢の筋Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの復習			
第6回	上肢の骨Ⅱ 前腕骨・手部の骨			第6回	下肢の筋Ⅰ 下肢帯の筋			
第7回	上肢の関節 肩関節・肘関節・手関節・指関節の構造			第7回	下肢の筋Ⅱ 大腿部の筋			
第8回	下肢の骨Ⅰ 寛骨・大腿骨			第8回	下肢の筋Ⅲ 下腿部の筋			
第9回	下肢の骨Ⅱ 下腿骨・足部の骨			第9回	下肢の筋Ⅳ 足部の筋			
第10回	下肢の関節 股関節・膝関節・足関節の構造			第10回	下肢の筋まとめ 下肢の筋Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの復習			
第11回	頭蓋骨Ⅰ 頭蓋骨を構成する骨			第11回	体表解剖学 骨学・筋学で学んだ部位を触診する			
第12回	頭蓋骨Ⅱ 眼窩・鼻腔・顎関節の構造			第12回	脈管系Ⅰ 血管・心臓の構造			
第13回	筋系総論・頭部の筋 筋の構造と機能、頭部・顔面の筋			第13回	脈管系Ⅱ 大動脈・頭頸部・上肢の動脈			
第14回	頸部・背部の筋 頸部・背部の筋			第14回	脈管系Ⅲ 胸腹部・骨盤・下肢の動脈			
第15回	胸部・腹部の筋 胸部・腹部の筋			第15回	脈管系Ⅳ 静脈・胎児循環・リンパ			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	解剖学Ⅰ		単位数	3 単位	選択 必修	必修
					時間数	90 時間		
担当教員	宇都野 創			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	歯科医師の資格を有し、歯科医院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	歯科医師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うよう教育する。							
学期区分	前期	金曜日	4 時限	講義室等	1年教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
解剖学は、柔道整復師を志す者にとって最も重要な科目です。しっかり学びましょう。				定期試験				
教科書	解剖学(医歯薬出版株式会社)			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	消化器① 消化器の働き～舌下腺			第1回				
第2回	消化器② 歯～咽頭喉頭部			第2回				
第3回	消化器③ 食道～十二指腸上行部			第3回				
第4回	消化器④ 空腸と回腸～結腸			第4回				
第5回	消化器⑤ 直腸～胆嚢			第5回				
第6回	消化器⑥ 膵臓～腹膜			第6回				
第7回	呼吸器① 呼吸器の働き～喉頭蓋軟骨			第7回				
第8回	呼吸器② 気管および気管支～肺			第8回				
第9回	呼吸器、泌尿器① 胸膜～腎臓			第9回				
第10回	泌尿器② 尿管～女性尿道			第10回				
第11回	生殖器① 生殖器の働き～精嚢			第11回				
第12回	生殖器② 付属生殖器～卵巣			第12回				
第13回	生殖器③ 卵管～膣			第13回				
第14回	生殖器④ 外陰部～胎盤			第14回				
第15回	前期内容のまとめ、復習			第15回				

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	生理学Ⅰ		単位数	3 単位	選択 必修	必修
					時間数	90 時間		
担当教員	宇都野 創			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	歯科医師の資格を有し、東日本大震災被災者身元確認などの法歯学での解剖経験あり					
実務経験 の運用	歯科医師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うよう教育する。							
学期区分	前期	水曜日	1 時限	講義室等	1年教室			
	後期	水曜日	1 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
生理学は身体の機能を学びます。みなさんがこれまで学んできた理科と、これから学ぶ医療を結びつける橋渡しとなる学問です。ここでは生理学の基礎から消化までを学びます。				定期試験				
教科書	生理学			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	生理学の基礎 1 生理学とは			第1回	循環の生理学 6 循環の調節 2			
第2回	生理学の基礎 2 からだの科学的構造			第2回	循環の生理学 7 循環の調節 3			
第3回	生理学の基礎 3 有機化合物			第3回	循環の生理学 8 循環の調節 4			
第4回	生理学の基礎 4 細胞の機能的構造			第4回	呼吸の生理学 1 呼吸器の機能的構造			
第5回	生理学の基礎 5 拡散、浸透、ろ過			第5回	呼吸の生理学 2 換気 1			
第6回	生理学の基礎 6 受動輸送と能動輸送			第6回	呼吸の生理学 3 換気 2			
第7回	血液の生理学 1 血液の役割			第7回	呼吸の生理学 4 ガス交換			
第8回	血液の生理学 2 免疫機能			第8回	呼吸の生理学 5 呼吸を調節するしくみ			
第9回	血液の生理学 3 血液型			第9回	呼吸の生理学 6 呼吸の異常			
第10回	血液の生理学 4 血液の凝固			第10回	消化と吸収 1 消化器の働き			
第11回	循環の生理学 1 心臓の機能 1			第11回	消化と吸収 2 消化液の分泌機序			
第12回	循環の生理学 2 心臓の機能 2			第12回	消化と吸収 3 消化			
第13回	循環の生理学 3 心臓の機能 3			第13回	消化と吸収 4 吸収			
第14回	循環の生理学 4 血管系			第14回	消化と吸収 5 消化管ホルモン			
第15回	循環の生理学 5 循環の調節 1			第15回	消化と吸収 6 肝臓と胆道系			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	生理学 I		単位数	3 単位	選択 必修	必修
					時間数	90 時間		
担当教員	宇都野 創			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	歯科医師の資格を有し、東日本大震災被災者身元確認などの法歯学での解剖経験あり					
実務経験 の運用	歯科医師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うよう教育する。							
学期区分	前期				講義室等	1年教室		
	後期	金曜日	4 時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
ヒトの身体の様々な器官や組織の働きを明らかにするのが生理学である。しっかりと理解してくれることを願う。					定期試験			
教科書	生理学(南江堂)				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回				第1回	内分泌系の機能① 内分泌とは～			
第2回				第2回	内分泌系の機能② ホルモンの定義～神経系			
第3回				第3回	内分泌系の機能③ 血中運搬と代謝～作用機序			
第4回				第4回	内分泌系の機能④ ホルモンの種類と作用			
第5回				第5回	内分泌系の機能⑤ 視床下部のホルモン～下垂体の構造			
第6回				第6回	内分泌系の機能⑥ 下垂体前葉ホルモン～プロラクチン			
第7回				第7回	内分泌系の機能⑥ 下垂体後葉ホルモン～オキシトシン			
第8回				第8回	内分泌系の機能⑦ 甲状腺の構造～甲状腺ホルモンの輸送と代謝			
第9回				第9回	内分泌系の機能⑧ 甲状腺ホルモンの分泌調節			
第10回				第10回	内分泌系の機能⑨ 副腎皮質の構造～副腎皮質ホルモン			
第11回				第11回	内分泌系の機能⑩ 副腎皮質ホルモンの分泌調節			
第12回				第12回	内分泌系の機能⑪ 副腎皮質ホルモンの生理作用～分泌調節			
第13回				第13回	内分泌系の機能⑫ 副腎髄質ホルモンの生理作用～分泌調節			
第14回				第14回	内分泌系の機能⑬ ソマトスタチン～プロジェステロンの作用			
第15回				第15回	後期試験内容のまとめ・復習			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	運動学	単位数	2 単位	選択 必修	必修
				時間数	60 時間		
担当教員	半田 秀一、宇都野 創		受講学科	柔道整復師学科		学 年	1・2 年
実務教員	○	実務経験	(半田)理学療法士・アスレチックトレーナーの資格を有し、スポーツ現場での経験あり (宇都野)歯科医師の資格を有し、法歯学での解剖経験あり				
実務経験 の運用	理学療法士や歯科医師としての現場経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うよう教育す						
学期区分	後期	月曜日	(1年) 3 時限	講義室等	1・2年教室		
	前・後期	水曜日	(2年) 2 時限	授業形式	講義		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
解剖学及び生理学を学び、人体の構造と機能というものが理解できたと思われる。しかし人体は常時解剖学的正位をとっているわけではない。日常の運動・動作というものを解剖学・生理学をあてはめて一つの動作にどのような事が起こっているかを理解してほしい。				定期試験			
教科書	運動学(学校協会編)			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉				〈前・後 期〉			
第1回	オリエンテーション・1～3章 運動学目的・表し方・運動力学を学習			第1回	1. 運動学の目的 2. 運動の表し方 3. 身体運動と力学、運動学を学ぶにあたり		
第2回	4章…運動器の構造と機能 骨の構造と機能を学習			第2回	4. 運動器の構造と機能 骨 関節 筋		
第3回	5章…神経の構造と機能 神経細胞の構造と機能を学習			第3回	5. 神経の構造と機能 シナプスetc.		
第4回	6～7章…運動感覚と反射 感覚と知覚・運動制御・反射を学習			第4回	6. 運動感覚 7. 反射と随意運動 運動感覚とは、反射とは		
第5回	8章…四肢と体幹の運動① 上肢帯の機能解剖を学習			第5回	8. 四肢と体幹の運動Ⅰ A上肢帯の運動 B肩関節 C肘関節		
第6回	地域の取り組み(水治療体験) 水中運動を体験し、運動の特徴を学習			第6回	8. 四肢と体幹の運動Ⅱ D手関節の運動 E股関節 F膝関節		
第7回	8章…四肢と体幹の運動② 下肢帯の機能解剖を学習			第7回	8. 四肢と体幹の運動Ⅲ G足関節 H体幹 I頸椎		
第8回	子どもの運動遊びの取り組み 子どもの発達を支援する取り組みを学習			第8回	8. 四肢と体幹の運動Ⅳ J胸椎 K腰椎 L顔面		
第9回	9～10章…姿勢・歩行 姿勢・歩行の運動学的分析を学習			第9回	9. 姿勢 分類 重心 立位		
第10回	11～12章…運動発達・運動学習 乳幼児期の運動発達・学習曲線を理解			第10回	10. 歩行Ⅰ A歩行周期～C分析		
第11回	高齢者の健康づくり(心と体) 高齢者の健康と支援を学習			第11回	10. 歩行Ⅱ D筋活動～G異常歩行		
第12回	自由研究テーマ・グループ分け 研究テーマの選定・グルーピング			第12回	11. 運動発達 乳幼児の運動発達		
第13回	自由研究期間 情報収集・整理のプロセスを学習			第13回	12. 運動学習 学習～記憶		
第14回	自由研究発表 プレゼン姿勢・質疑応答を学習			第14回	まとめ		
第15回	運動学のまとめ、レポート作成+期末試験 レポート提出・期末試験			第15回	テスト対策		

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	衛生・公衆衛生学		単位数	2単位	選択 必修	必修
					時間数	60時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	木曜日	4 時限	講義室等	1年教室			
	後期	木曜日	4 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
疾病の予防、健康の保持。増進を目的とした衛生学・公衆衛生学の意義と各論を系統的に学び、地域保健活動や予防医学活動の重要性について認識を深めていきます。人々が健康を享受するための望ましい社会制度や組織活動について学び、各種医療専門職の役割を理解することを目標とします。				定期試験の成績・授業への出席状況				
教科書	衛生学・公衆衛生学(学校協会編)			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	衛生学・公衆衛生学 衛生学・公衆衛生学の概要			第1回	学校保健 学校保健の意義			
第2回	健康の概念 健康の定義			第2回	学校保健 学校保健管理 環境管理			
第3回	健康の概念 人口統計、健康水準、健康指標			第3回	産業保健 産業保健の目的			
第4回	疾病予防と健康管理 予防の概念			第4回	産業保健 職業病とその対策			
第5回	疾病予防と健康管理 生活習慣と疾病、集団検診			第5回	成人、老人の保健 老人保健・福祉対策、介護保険			
第6回	感染症の予防 感染症の成立、ウイルス性感染症			第6回	成人、老人保健 生活習慣病、老人の健康状況			
第7回	感染症の予防 細菌性感染症			第7回	精神保健 精神保健の意義と精神障害者の現状			
第8回	感染症の予防 我が国の感染症流行の動向			第8回	生活環境・食品衛生活動 水の衛生と水質汚濁、衣服の衛生			
第9回	消毒 消毒とは			第9回	生活環境・食品衛生活動 住居環境、食品の安全			
第10回	環境保健 環境保健とは			第10回	生活環境・食品衛生活動 栄養改善活動、廃棄物処理			
第11回	環境保健 公害について			第11回	地域保健と国際保健 地域保健活動の現状、国際協力			
第12回	環境保健 空気の衛生と大気汚染			第12回	衛生行政と保健医療の制度 衛生行政機構、医療保険の現状			
第13回	母子保健 母子保健の指標と現状			第13回	疫学 疫学とは、疫学の3要因、疫学モデル			
第14回	母子保健 母子保健対策の現状			第14回	疫学 疫学調査の手順と留意事項			
第15回	まとめ 前期のまとめ			第15回	まとめ 後期のまとめ			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	柔道Ⅰ		単位数	2単位	選択 必修	必修
					時間数	60時間		
担当教員	飯田 秀男 丸尾 泉			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、柔道を通し、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	水曜日	2 時限	講義室等	柔道場			
	後期	水曜日	2 時限	授業形式	実技			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
柔道実技審査に向けて、柔道の精神・体力・技の理合など基本的事項を理解させる。柔道経験がなく入学した学生の技能習熟の到達目標を柔道初段の取得に置き、初段程度の技量を習得させる。柔道を体験しながら柔道の良さを知る。対人的技能との関連で基本動作を習得しながら得意技を作る。					実技審査に準じた実技試験 (礼法から前方回転受身、投の形)			
教科書					参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	ガイダンス(注意事項) 柔道の特性、歴史について			第1回	投技(足技) 反転横受身から送足払			
第2回	柔道の基本動作 姿勢、正座、礼法→座礼、立礼			第2回	投技(足技) 送足払・出足払・大外刈・小外刈			
第3回	投技の基本動作 進退動作、体ほぐし運動			第3回	投技(足技) 大外刈・子外刈・小内刈り・大内刈			
第4回	投技の基本動作－受身 姿勢、後方、側方、前方受身			第4回	体さばき⇒組み手注意事項 投技の打込み⇒移動打込み			
第5回	柔道着について 名称、柔道着の着方、たたみ方、帯の結び方			第5回	反則について 投技 自由練習(乱取)			
第6回	投技の基本動作－受身 前方回転受身-姿勢-馬姿勢から			第6回	抑え技 復習(全種類) 抑え技の攻め方、返し方について			
第7回	受身・投技 前方回転受身 投技→大腰			第7回	絞技、関節技の復習 逃げ方について、寝技乱取			
第8回	中間試験 基本動作試験(服装・正座・座礼・立礼)			第8回	中間試験 投技(足技)・寝技まとめ			
第9回	受身・投技 大腰・背負投・一本背負投			第9回	投げの形について－① 手技(浮落、背負投)			
第10回	受身・投技 体落・釣込腰・背負落			第10回	投げの形について－② 手技(背負投、肩車)			
第11回	受身・投技 体落・膝車・支釣込足			第11回	投げの形について－① 手技の復習			
第12回	寝技(抑え技)8種 ひとつの抑え技から世界一周へ			第12回	投げの形について－② 腰払(浮腰、払腰)			
第13回	抑え技から絞技へ 並十字、逆十字、裸、送襟、片羽絞			第13回	投げの形について－② 腰技(払腰、釣込腰)			
第14回	抑え技から関節技へ 腕緘から各種 関節技			第14回	投げの形について－② 腰技の復習			
第15回	前期試験 練習 投技・寝技 各復習			第15回	後期期末試験 練習 投げの形(手技)を中心に			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	職業倫理		単位数	1単位	選択 必修	必修
					時間数	30時間		
担当教員	檜原 康之			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月曜日	3 時限	講義室等	1年教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
医療従事者の職業倫理、患者への対応、、社会的責任について学習する。				定期試験 出欠席				
教科書	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	医療従事者の職業倫理① 職業人としての社会的責任と役割			第1回				
第2回	医療従事者の職業倫理② 生命倫理を考える			第2回				
第3回	医療従事者の職業倫理③ インフォームド・コンセントとは			第3回				
第4回	柔道整復師に必要な倫理観① 守秘義務の理解			第4回				
第5回	柔道整復師に必要な倫理観② 施術範囲の判断			第5回				
第6回	柔道整復師に必要な倫理観③ 医療過誤と医療事故について			第6回				
第7回	柔道整復師に必要な倫理観④ 患者からの暴言等の対応について			第7回				
第8回	柔道整復師に必要な倫理観⑤ 施術料金の取り扱い			第8回				
第9回	柔道整復師の社会的責任と対応① 優先順位の考え方			第9回				
第10回	柔道整復師の社会的責任と対応② 高齢者とのコミュニケーション			第10回				
第11回	柔道整復師の社会的責任と対応③ 家族への説明と応対			第11回				
第12回	柔道整復師の社会的責任と対応④ 他職種との違い			第12回				
第13回	医療における情報と責任① 個人情報保護法について			第13回				
第14回	医療における情報と責任② 個人情報の管理			第14回				
第15回	医療における情報と責任③ 臨床現場での活用			第15回				

授業科目 区 分	専門	担当科目	基礎柔道整復学Ⅰ		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	120 時間		
担当教員	鍋倉 祐貴			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	木曜日	2 時限	講義室等	1年教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
柔道整復学の基礎を学ぶ。総論中心。軟部組織損傷の概要や修復過程のメカニズムを学ぶことで、外傷時に身体の内部でどのような現象が起きているのか理解することを目的とする。				定期試験、出欠席				
教科書	柔道整復学・理論編			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション			第1回				
第2回	柔道整復術とは			第2回				
第3回	柔道整復の業務範囲			第3回				
第4回	柔道整復術を施すための心構え			第4回				
第5回	身体の基礎的状态			第5回				
第6回	損傷時に加わる力			第6回				
第7回	骨折の定義			第7回				
第8回	骨損傷の分類			第8回				
第9回	骨折の程度による分類			第9回				
第10回	骨折の固有症状			第10回				
第11回	骨折時の全身症状			第11回				
第12回	骨折の治癒に影響を与える因子			第12回				
第13回	偽関節の発生原因			第13回				
第14回	まとめ			第14回				
第15回	小テスト			第15回				

授業科目 区 分	専 門	担当科目	基礎柔道整復学Ⅰ		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	120 時間		
担当教員	鍋倉 祐貴			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	3 時限	講義室等	1年教室			
	後期	火曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
身近で起きるスポーツ外傷を通じて基本的な知識を身につける。現場のイメージを感じてもらい学習意欲を高める。				定期試験、出欠席				
教科書	柔道整復学 理論編			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション			第1回	重篤な外傷			
第2回	スポーツ外傷・障害の基礎知識			第2回	重篤な外傷			
第3回	下肢のスポーツ外傷・障害1			第3回	重篤な外傷			
第4回	下肢のスポーツ外傷・障害2			第4回	重篤な外傷			
第5回	下肢のスポーツ外傷・障害3			第5回	その他の外傷			
第6回	下肢のスポーツ外傷・障害4			第6回	その他の外傷			
第7回	上肢のスポーツ外傷・障害1			第7回	その他の外傷			
第8回	上肢のスポーツ外傷・障害2			第8回	その他の外傷			
第9回	上肢のスポーツ外傷・障害3			第9回	年齢・性別による特徴			
第10回	上肢のスポーツ外傷・障害4			第10回	年齢・性別による特徴			
第11回	体幹のスポーツ外傷・障害1			第11回	年齢・性別による特徴			
第12回	体幹のスポーツ外傷・障害2			第12回	スポーツ整形外科的メディカルチェック1			
第13回	体幹のスポーツ外傷・障害3			第13回	スポーツ整形外科的メディカルチェック2			
第14回	体幹のスポーツ外傷・障害4			第14回	スポーツ整形外科的メディカルチェック3			
第15回	前期のまとめ			第15回	1年間のまとめ			

授業科目 区 分	専門	担当科目	基礎柔道整復学Ⅰ		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	120 時間		
担当教員	小宮山 潤			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	金曜日	3 時限	講義室等	1年教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
筋・腱・神経等の損傷から治癒に至るまでを理解する。又、顎関節・体幹・脊柱の軟部組織損傷における各疾患の特徴を理解し、評価法を学習していく。				定期試験				
教科書	柔道整復学 理論編			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	筋の損傷 概説・治癒			第1回				
第2回	筋の損傷 概説・治癒			第2回				
第3回	腱の損傷 概説・治癒			第3回				
第4回	末梢神経の損傷 概説・治癒			第4回				
第5回	頭部・顔面部の軟部組織損傷 顔面部打撲・顎関節捻挫			第5回				
第6回	頭部・顔面部の軟部組織損傷 顎関節症			第6回				
第7回	頸部の軟部組織損傷 むち打ち損傷			第7回				
第8回	頸部の軟部組織損傷 胸郭出口症候群			第8回				
第9回	頸部の軟部組織損傷 注意すべき疾患			第9回				
第10回	胸部・背部の軟部組織損傷 胸肋関節・肋間筋損傷			第10回				
第11回	胸部・背部の軟部組織損傷 打撲・背部の軟部組織損傷			第11回				
第12回	腰部の軟部組織損傷 関節性・靱帯性・筋筋膜性			第12回				
第13回	腰部の軟部組織損傷 その他の疾患			第13回				
第14回	復習			第14回				
第15回	前期定期試験対策			第15回				

授業科目 区 分	専 門	担当科目	物理療法機器等の取扱い		単位数	1単位	選択 必修	必修
					時間数	30時間		
担当教員	鍋倉 祐貴			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期				講義室等	1年教室		
	後期	水曜日	3 時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
柔道整復師領域で使用する物理療法等の原理、作用を学習する。また、適切な取扱いを学習し、安心・安全な機器の提供を目的とする。					定期試験 出欠席			
教科書					参考書	プリント		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回				第1回	物理療法の目的 生理学的作用			
第2回				第2回	痛みの機序 伝導経路と脳の仕組み			
第3回				第3回	温熱療法① ホットパック、パラフィン浴など			
第4回				第4回	温熱療法② 極超短波療法など			
第5回				第5回	温熱療法③ 赤外線療法など			
第6回				第6回	温熱療法④ 超音波療法など			
第7回				第7回	温熱療法⑤ 光線療法など			
第8回				第8回	温熱療法 禁忌について			
第9回				第9回	電気療法① 低周波について			
第10回				第10回	電気療法② 干渉波について			
第11回				第11回	寒冷療法① 作用と効果について			
第12回				第12回	寒冷療法② 冷却法について			
第13回				第13回	牽引療法① 取り扱いについて			
第14回				第14回	牽引療法② 禁忌について			
第15回				第15回	総まとめ 臨床での応用			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	包帯実技		単位数	1単位	選択 必修	必修
					時間数	30時間		
担当教員	檜原 康之			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	水曜日	3 時限	講義室等	実技実習室			
	後期			授業形式	実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
包帯に慣れる。固定力の保持、機能的な包帯固定の技術の習得を目指す。				実技試験 出欠席				
教科書	包帯固定学(南江堂)			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション 包帯の取り扱いについて			第1回				
第2回	固定 目的、範囲、肢位			第2回				
第3回	固定材料の種類 副子など			第3回				
第4回	基本包帯法① 折転帯、麦穂帯トレーニング			第4回				
第5回	基本包帯法② 亀甲帯、螺旋帯トレーニング			第5回				
第6回	基本包帯法③ 手関節固定法			第6回				
第7回	基本包帯法④ 手指部固定法			第7回				
第8回	基本包帯法⑤ 下肢固定法			第8回				
第9回	基本包帯法⑥ 足関節固定法			第9回				
第10回	基本包帯法⑦ 足趾部固定法			第10回				
第11回	個本包帯法⑧ 肩関節固定法			第11回				
第12回	冠名包帯法① デゾー包帯法			第12回				
第13回	冠名包帯法② ウェルポー包帯法			第13回				
第14回	冠名包帯法③ ジュール包帯法			第14回				
第15回	復習 上肢部・下肢部の固定法			第15回				

授業科目 区 分	専門	担当科目	柔道整復実技Ⅰ		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	120 時間		
担当教員	檜原 康之			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	2 時限	講義室等	1年教室			
	後期	火曜日	2 時限	授業形式	実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
身体における評価を運動学・整形外科の視点から学習し実践の場で活用する実技を身に付ける。				定期試験				
	柔道整復理論・実技、整形外科、運動学			参考書	諸々			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	初回プレゼン 自己紹介			第1回	身体的評価法① 上肢長測定について			
第2回	身体的評価法① 姿勢について			第2回	身体的評価法② 上肢可動域評価①について			
第3回	身体的評価法② 下肢長について			第3回	身体的評価法③ 上肢可動域評価②について			
第4回	身体的評価法③ 膝の評価法について			第4回	身体的評価法④ 肘、手関節変形について			
第5回	身体的評価法④ 足関節、足趾評価法について			第5回	身体的評価⑤ 上肢筋触診法①			
第6回	身体的評価法⑤ 下肢の関節可動域評価法①について			第6回	身体的評価⑥ 上肢筋触診法②			
第7回	身体的評価法⑥ 下肢の関節可動域評価法②について			第7回	身体的実践法 臨床徒手検査法①			
第8回	身体的評価法⑦ 全身関節弛緩性テスト			第8回	身体的実践法 臨床徒手検査法②			
第9回	身体的評価法⑧ 下肢筋タイトネステストについて			第9回	身体的実践法 臨床徒手検査法③			
第10回	身体的評価法⑨ 足関節の構造について			第10回	身体的実践法 臨床徒手検査法④			
第11回	身体的実践法 足関節テーピング法①			第11回	身体的実践法 臨床徒手検査法⑤			
第12回	身体的実践法 足関節テーピング法②			第12回	身体的評価法、実践法まとめ 実践実技テスト			
第13回	身体的実践法 下肢筋肉触診法①			第13回	身体的評価、実践法まとめ 実践実技テスト			
第14回	身体的実践法 下肢筋肉触診法②			第14回	身体的評価、実践法まとめ 実践実技テスト			
第15回	身体的評価法・実践法まとめ 前期テスト対策			第15回	身体的評価、実践法まとめ 実践実技テスト			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	柔道整復実技Ⅰ		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	120 時間		
担当教員	(前期)鍋倉祐貴、(後期)河島侑里		受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年	
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	4 時限	講義室等	実技実習室			
	後期	木曜日	2 時限	授業形式	講義・実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
固定法、手技療法や運動療法を学ぶことで、発生頻度の高い主なスポーツ外傷・障害に関する知識の習得を目指します。				定期試験(筆記・実技)、出欠席				
教科書	スライド、プリント			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション			第1回	手技療法① 体幹			
第2回	患者さんへのアプローチ			第2回	手技療法 ② 上肢			
第3回	スポーツ現場の実際 ① 頭部、体幹			第3回	手技療法③ 下肢			
第4回	スポーツ現場の実際 ② 上肢			第4回	手技療法 ④ ストレッチ			
第5回	スポーツ現場の実際 ③ 下肢			第5回	肩関節部の損傷 主なケガ、包帯、テーピング			
第6回	柔道整復師の応急処置 ① こんな時、あなたはどのようにしますか。			第6回	肘関節部の損傷 主なケガ、包帯、テーピング			
第7回	柔道整復師の応急処置 ② ディスカッションと実地			第7回	膝関節部の損傷 主なケガ、包帯、テーピング			
第8回	足関節部の損傷 ① 解剖と機能			第8回	足関節 主なケガ、包帯、テーピング			
第9回	足関節部の損傷 ② 診察、検査法			第9回	運動療法 上肢			
第10回	足関節部の損傷 ③ 固定法			第10回	運動療法 下肢			
第11回	足関節部の損傷 ④ 固定法			第11回	手技療法 全身			
第12回	足関節部の損傷 ⑤ 固定法			第12回	手技療法 頸部			
第13回	足関節部の損傷 ⑥ 後療法			第13回	固定法 厚紙やキャストを使用			
第14回	前期復習			第14回	後期復習			
第15回	前期実技試験			第15回	後期実技試験			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	臨床実習	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	90 時間			
担当教員	檜原康之、飯田秀男、小宮山 潤、鍋倉祐貴			受講学科	柔道整復師学科		学 年	1 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月・火・木曜日 0・1 時限			講義室等	附属接骨院・1年教室		
	後期	月・火・木曜日 0・1 時限						
					授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
医療人としての知識・技術・立ち振る舞いを身につける。					各回ごとの平均点で評価			
教科書					参考書	臨床実習実施要領		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	臨床実習 1 オリエンテーション			第1回	臨床実習 16 施術の介助			
第2回	臨床実習 2 立ち居振る舞い・コミュニケーションについて			第2回	臨床実習 17 施術の介助			
第3回	臨床実習 3 臨床実習にむけて			第3回	臨床実習 18 施術の介助			
第4回	臨床実習 4 態度・接遇・付帯業務			第4回	臨床実習 19 施術の介助			
第5回	臨床実習 5 態度・接遇・付帯業務			第5回	臨床実習 20 施術の介助			
第6回	臨床実習 6 態度・接遇・付帯業務			第6回	臨床実習 21 施術の介助			
第7回	臨床実習 7 態度・接遇・付帯業務			第7回	臨床実習 22 施術の介助			
第8回	臨床実習 8 態度・接遇・付帯業務			第8回	臨床実習 23 物理療法			
第9回	臨床実習 9 態度・接遇・付帯業務			第9回	臨床実習 24 物理療法			
第10回	臨床実習 10 施術の介助			第10回	臨床実習 25 物理療法			
第11回	臨床実習 11 施術の介助			第11回	臨床実習 26 物理療法			
第12回	臨床実習 12 施術の介助			第12回	臨床実習 27 物理療法			
第13回	臨床実習 13 施術の介助			第13回	臨床実習 28 物理療法			
第14回	臨床実習 14 施術の介助			第14回	臨床実習 29 物理療法			
第15回	臨床実習 15 施術の介助			第15回	臨床実習 30 物理療法			

授 業 計 画

(2026年度)

柔道整復師学科 2年生

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	解剖学Ⅱ		単位数	3 単位	選択 必修	必修
					時間数	90 時間		
担当教員	宇都野 創			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	歯科医師の資格を有し、歯科医院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	歯科医師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うよう教育する。							
学期区分	前期	水曜日	5 時限	講義室等	2年教室			
	後期	水曜日	5 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
解剖学は、柔道整復師を志す者にとって最も重要な科目です。しっかり学びましょう。					定期試験			
教科書	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	脈管系① 体循環と肺循環～毛細血管			第1回	消化器⑤ 大腸～肝臓			
第2回	脈管系② 心臓の位置と形態～大動脈弁			第2回	消化器⑥ 胆嚢～腹膜			
第3回	脈管系③ 心臓壁の構造～漿膜性心膜			第3回	呼吸器① 呼吸器の働き～咽頭			
第4回	脈管系④ 肺循環～大脳動脈輪			第4回	呼吸器② 喉頭～気管及び気管支			
第5回	脈管系⑤ 鎖骨下動脈～精巣動脈または卵巣動脈			第5回	呼吸器③ 肺～縦隔			
第6回	脈管系⑥ 壁側枝～頸部の皮下静脈			第6回	泌尿器① 泌尿器の働き～腎臓			
第7回	脈管系⑦ 上肢の静脈～精巣静脈または卵巣静脈			第7回	泌尿器② 尿管～女性尿道			
第8回	脈管系⑧ 門脈～小伏在静脈			第8回	生殖器① 生殖器の働き～精嚢			
第9回	脈管系⑨ 胎児循環～リンパ本幹			第9回	生殖器② 付属生殖器～卵巣			
第10回	脈管系⑩ リンパ性器官～胸腺			第10回	生殖器③ 卵管～膣			
第11回	消化器① 消化器の働き～舌下腺			第11回	生殖器④ 外陰部～胎盤			
第12回	消化器② 歯～有郭乳頭			第12回	内分泌系① 内分泌の働き～バソプレッシン			
第13回	消化器③ 咽頭～胃幽門部			第13回	内分泌系② 松果体～上皮小体			
第14回	消化器④ 胃粘膜～空腸と回腸			第14回	内分泌系③ 副腎～卵巣			
第15回	前期内容まとめ・復習			第15回	後期内容まとめ・復習			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	解剖学Ⅱ		単位数	3 単位	選択 必修	必修
					時間数	90 時間		
担当教員	鍋倉 祐貴			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期				講義室等	2年教室		
	後期	金曜日	2 時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
内臓系(消化器・呼吸器・泌尿器・生殖器)・内分泌系・神経系・感覚器系の構造について理解し説明できることを目標とする。					定期試験(100点満点)により評価し、60点以上を合格とする。			
教科書	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				参考書	ネッター解剖学アトラス(南江堂) プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回				第1回	中枢神経系Ⅰ 神経系の基本構造・中枢神経の構造			
第2回				第2回	中枢神経系Ⅱ 間脳・脳幹部・小脳・脊髄の構造			
第3回				第3回	中枢神経系Ⅲ 伝導路			
第4回				第4回	末梢神経系Ⅰ 脳神経の構造			
第5回				第5回	末梢神経系Ⅱ 脊髄神経の構造			
第6回				第6回	末梢神経系Ⅲ 自律神経の構造			
第7回				第7回	消化器Ⅰ 口腔から肛門までの各部位の構造			
第8回				第8回	消化器Ⅱ 肝臓・胆嚢・膵臓の構造			
第9回				第9回	呼吸器 鼻腔・喉頭・気管・気管支の構造			
第10回				第10回	泌尿器 腎臓・尿管・膀胱・尿道の構造			
第11回				第11回	生殖器Ⅰ 男性生殖器の構造			
第12回				第12回	生殖器Ⅱ 女性生殖器の構造			
第13回				第13回	内分泌系 ホルモンを分泌する臓器の構造			
第14回				第14回	感覚器 皮膚・視覚器・平衡聴覚器の構造			
第15回				第15回	後期のまとめ 後期で学んだ内容を復習する			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	生理学Ⅱ		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	宇都野 創			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	歯科医師の資格を有し、歯科医院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	歯科医師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うよう教育する。							
学期区分	前期	金曜日	3 時限	講義室等	2年教室			
	後期	金曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
ヒトの身体のような様々な器官や組織の働きを明らかにするのが生理学である。しっかりと理解してくれることを願う。					定期試験			
教科書	生理学(南江堂)				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	生理学の基礎① 生理学とは～同位体			第1回	循環の生理学⑥ リンパ系～その他の調節			
第2回	生理学の基礎② 化学結合、分子、イオン～有機化合物			第2回	循環の生理学⑦ 体液性調節～肺循環			
第3回	生理学の基礎③ 糖質と脂質～ステロイド			第3回	循環の生理学⑧ 皮膚循環～血液―脳関門			
第4回	生理学の基礎④ 蛋白質～小胞体とリボソーム			第4回	呼吸の生理学① 呼吸器の機能的構造～呼吸器の働きと換気のしくみ			
第5回	生理学の基礎⑤ ゴルジ装置～ろ過			第5回	呼吸の生理学② 肺泡内圧と胸膜腔内圧～肺泡換気量と死腔			
第6回	生理学の基礎⑥ 受動輸送～エクソサイトーシス			第6回	呼吸の生理学③ 呼吸のための仕事～その他の要因			
第7回	血液の生理学① 血液の役割～赤血球			第7回	呼吸の生理学④ 血液中の二酸化炭素の運搬			
第8回	血液の生理学② 白血球～アレルギー			第8回	呼吸の生理学⑤ 呼吸の異常～機械的人工呼吸装置			
第9回	血液の生理学③ 血液型～止血の異常			第9回	消化と吸収① 消化器系のはたらき～消化管の運搬とその調節			
第10回	循環の生理学① 循環の生理学～神経支配			第10回	消化と吸収② 分節運動～体液性機序			
第11回	循環の生理学② 心筋の基本的性質～スターリングの心臓の法則			第11回	消化と吸収③ 唾液の分泌機序～糖質の消化			
第12回	循環の生理学③ 心電図～不整脈			第12回	消化と吸収④ 蛋白質の消化～脂質の吸収			
第13回	循環の生理学④ 心臓のポンプ機能～交換血管系			第13回	消化と吸収⑤ 消化管ホルモン～分泌調節と作用			
第14回	循環の生理学⑤ 容量血管系(静脈)～聴診法			第14回	消化と吸収⑥ 肝臓と胆道系～胆道系のはたらき			
第15回	前期内容まとめ・復習			第15回	後期内容まとめ・復習			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	高齢者、競技者生理学的特徴	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	60 時間			
担当教員	小宮山 潤			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	木曜日	3 時限	講義室等	2年教室			
	後期	木曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
今日の高齢社会を踏まえ、老化および加齢に伴う生理的变化とその特徴を理解し施術を行う場合の留意点を理解する。競技者に対する、生理的变化とその特徴、施術に対する留意点などを理解する。1.加齢に伴う変化について理解し、その生理的变化の現状と動向と関連する疾患について説明ができる。2.競技者と一般人の違いを理解し、その生理的变化の特徴とそれに関連する疾患について説明できる。				定期試験の成績・授業への出席状況				
教科書	高齢者、競技者の生理学的特徴(学校協会編)			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	健康作りを進める施策 世界の歩み			第1回	高齢者に多い症候および老年症候群3			
第2回	健康作りを進める施策 生活習慣病			第2回	高齢者に多い症候および老年症候群4			
第3回	年齢による運動機能の変化 細胞 皮膚、血液			第3回	高齢者に多い症候および老年症候群5			
第4回	年齢による運動機能の変化 心臓、内臓			第4回	高齢者のリハビリテーションと保健			
第5回	年齢による運動機能の変化 泌尿器、生殖器			第5回	健康と栄養			
第6回	年齢による運動機能の変化 脳			第6回	競技者と年齢			
第7回	年齢による運動機能の変化 ホルモン1			第7回	競技者と疲労			
第8回	年齢による運動機能の変化 ホルモン2			第8回	競技者と傷害			
第9回	年齢による運動機能の変化 骨格 筋肉 作成			第9回	競技者と救急			
第10回	年齢による運動機能の変化 筋肉・神経系1			第10回	競技者とトレーナー			
第11回	年齢による運動機能の変化と疾患 筋肉・神経系2			第11回	競技者とトレーニング			
第12回	加齢に伴う生理的变化			第12回	競技と体力とパワー			
第13回	高齢者に多い症候および老年症候群1			第13回	競技と柔軟、スピードと持久力			
第14回	高齢者に多い症候および老年症候群2			第14回	競技者とプログラム			
第15回	まとめ			第15回	まとめ			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	病理学概論		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	宇都野 創			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	歯科医師の資格を有し、歯科医院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	歯科医師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うよう教育する。							
学期区分	前期	水曜日	3 時限	講義室等	2年教室			
	後期	水曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
疾病の5つの分類を通して疾病の原因や病態を学び、具体的な疾病名を関連付ける。病態とはどのような状態か、病変のある部位ではどのような現象が観察されるか、どのように処置を行わなければならないか、疾病を知るために何をわからなければならないか、一年次に学んできた解剖学は正常を学んできた。病理学概論では異常を学ぶ。疾病を他者に(他分野とのコミュニケーション)伝達するための用語を理解していただきたい。					定期試験			
教科書	病理学概論				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	病理学とは 疾病の一般 P1～P8			第1回	前期の復習			
第2回	病因 P127～P150			第2回	炎症 P61～68			
第3回	病因 P127～P150			第3回	炎症 P61～68			
第4回	病因 P127～P150			第4回	炎症 P61～68			
第5回	先天性異常 P113～P125			第5回	免疫異常、アレルギー P71～84			
第6回	先天性異常 P113～P125			第6回	免疫異常、アレルギー P71～84			
第7回	細胞障害(退行性病変・代謝障害) P9～P27			第7回	免疫異常、アレルギー P71～84			
第8回	細胞障害(退行性病変・代謝障害) P9～P27			第8回	免疫異常、アレルギー P71～84			
第9回	循環障害 P29～P47			第9回	腫瘍 P85～111			
第10回	循環障害 P29～P47			第10回	腫瘍 P85～111			
第11回	循環障害 P29～P47			第11回	腫瘍 P85～111			
第12回	循環障害 P29～P47			第12回	腫瘍 P85～111			
第13回	進行性病変(病的増殖)と細胞・組織の適応 P49～P60			第13回	運動器の病理 P151～166			
第14回	進行性病変(病的増殖)と細胞・組織の適応 P49～P60			第14回	運動器の病理 P151～166			
第15回	国家試験 演習			第15回	国家試験演習			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	一般臨床医学		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、病院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	医柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と接骨院との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	火曜日	2 時限	講義室等	2年教室またはPC教室			
	後期	火曜日	2 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
1. 柔道整復師として知るべき内科を中心とした臨床医学全般の基本的な知識と考え方を身につける。 2. 柔道整復師の業務に直接関連する事項については簡潔に説明できる。					定期試験(客観式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする			
教科書	全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学 改訂第3版				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	診察概論 診察各論(1) 医療面接 視診(～精神状態)			第16回	確認テスト③ 呼吸器疾患 循環器疾患			
第2回	診察各論(2) 視診(異常運動 歩行 皮膚)			第17回	消化器疾患(1) 総論 上部消化管の疾患			
第3回	診察各論(3) 視診(頭部・顔面～背部・腰部)			第18回	消化器疾患(2) 下部消化管の疾患 急性肝炎～脂肪肝			
第4回	診察各論(4) 視診(四肢) 打診 聴診			第19回	消化器疾患(3) 肝硬変～腹膜疾患			
第5回	確認テスト① 医療面接 視診 打診 聴診			第20回	代謝疾患			
第6回	診察各論(5) 触診			第21回	確認テスト④ 消化器疾患 代謝疾患			
第7回	診察各論(6) 生命徴候			第22回	内分泌疾患			
第8回	診察各論(7) 感覚検査 反射検査			第23回	血液・造血器疾患			
第9回	診察各論(8) 代表的な臨床症状(発熱～チアノーゼ)			第24回	腎・尿路疾患 * 腎移植は外科学概論で			
第10回	診察各論(9) 代表的な臨床症状(関節痛～やせ)検査法			第25回	確認テスト⑤ 内分泌・血液・造血器・腎・尿路疾患			
第11回	確認テスト② 触診～検査法			第26回	神経疾患(1) 総論 脳血管障害 脳腫瘍			
第12回	呼吸器疾患(1) 総論 各論(かぜ症候群～肺結核)			第27回	神経疾患(2) 中枢神経系の感染症～筋疾患			
第13回	呼吸器疾患(2) 呼吸器疾患(気管支喘息～気胸)			第28回	感染症			
第14回	循環器疾患(1) 総論 心臓の疾患			第29回	リウマチ性疾患～環境要因による疾患			
第15回	循環器疾患(2) 高血圧症 血管疾患 不整脈			第30回	確認テスト⑥ 神経疾患～環境要因による疾患			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	リハビリテーション医学	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	60 時間			
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、整形外科での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うよう教育する。							
学期区分	前期	木曜日	2 時限	講義室等	2年教室			
	後期	木曜日	2 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
柔道整復師を志す皆さんにとって”リハビリテーション”という言葉はきりはなせないものであります。広範囲ではありますがどのようなものなのか学びましょう。				定期試験				
教科書	リハビリテーション医学			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	リハビリテーションの概説と歴史 概念			第1回	リハビリテーション医学と関連職種 関連職種			
第2回	リハビリテーション医学 リハビリテーションと医学的リハビリテーション			第2回	リハビリテーションの実際 1 脳卒中			
第3回	リハビリテーションの基礎医学 1 運動学と機能解剖			第3回	リハビリテーションの実際 2 脊髄損傷			
第4回	リハビリテーションの基礎医学 2 上肢の運動と機能解剖			第4回	リハビリテーションの実際 3 小児疾患			
第5回	リハビリテーションの基礎医学 3 治療学			第5回	リハビリテーションの実際 4 切断			
第6回	リハビリテーション医学の評価と診断 1 患者のとらえ方			第6回	リハビリテーションの実際 5 末梢神経損傷			
第7回	リハビリテーション医学の評価と診断 2 関節可動域測定法			第7回	リハビリテーションの実際 6 関節リウマチ			
第8回	リハビリテーション医学の評価と診断 3 小児の運動発達の評価法			第8回	リハビリテーションの実際 7 小児疾患			
第9回	リハビリテーションの治療 1 理学療法			第9回	リハビリテーションの実際 8 小児疾患			
第10回	リハビリテーションの治療 2 作業療法			第10回	リハビリテーションの実際 9 小児疾患			
第11回	リハビリテーションの治療 3 補装具、装具			第11回	リハビリテーションの実際 10 小児疾患			
第12回	リハビリテーションの治療 4 義肢			第12回	リハビリテーションの実際 11 小児疾患			
第13回	リハビリテーションの治療 5 移動補装具			第13回	脈管系Ⅱ 大動脈・頭頸部・上肢の動脈			
第14回	リハビリテーションの治療 6 自助具と介助機器			第14回	脈管系Ⅲ 胸腹部・骨盤・下肢の動脈			
第15回	リハビリテーションの治療 7 言語治療			第15回	脈管系Ⅳ 静脈・胎児循環・リンパ			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	柔道整復術の適応		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	檜原 康之			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期				講義室等	2年教室		
	後期	金曜日	4・5 時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
柔道整復師の適応を知る。					定期試験(100点満点)により評価し、60点以上を合格とする。			
教科書	柔道整復術適応の臨床判定				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈後 期〉				〈後 期〉				
第1回	柔道整復術の適否を考える			第16回	医用画像の理解 CT・MRI画像の理解 ②			
第2回	足の痛みから適否を考える ①			第17回	医用画像の理解: 超音波画像装置 足関節 ATFL ①			
第3回	損傷に類似した症状を示す疾患			第18回	医用画像の理解: 超音波画像装置 足関節 ATFL ②			
第4回	足の痛みから適否を考える ②			第19回	医用画像の理解: 超音波画像装置 肘関節 MCL ①			
第5回	血流障害を伴う疾患			第20回	医用画像の理解: 超音波画像装置 肘関節 MCL ②			
第6回	足の痛みから適否を考える ③			第21回	医用画像の理解: 超音波画像装置 筋・筋腹・筋膜 ①			
第7回	末梢神経損傷を伴う損傷			第22回	医用画像の理解: 超音波画像装置 筋・筋腹・筋膜 ②			
第8回	医用画像の理解 X線			第23回	医用画像の理解: 超音波画像装置 肩関節 上腕二頭筋長頭腱・腱板 ①			
第9回	病的骨折および脱臼 意識障害を伴う損傷			第24回	医用画像の理解: 超音波画像装置 肩関節 上腕二頭筋長頭腱・腱板 ②			
第10回	医用画像の理解 X線の一般撮影法 ①			第25回	柔道整復術の適応 膝 ACL損傷 ①			
第11回	脊髄症状のある損傷			第26回	柔道整復術の適応 膝 ACL損傷 ②			
第12回	医用画像の理解 X線の一般撮影法 ②			第27回	柔道整復術の適応 腰痛を訴える疾患 ①			
第13回	呼吸運動障害を伴う損傷 内臓損傷の合併が疑われる損傷			第28回	柔道整復術の適応 腰痛を訴える疾患 ②			
第14回	医用画像の理解 超音波画像装置の概要			第29回	柔道整復術の適応 まとめ ①			
第15回	医用画像の理解 CT・MRI画像の理解 ①			第30回	柔道整復術の適応 まとめ ②			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	柔道Ⅱ		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	飯田 秀男 丸尾 泉			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	水曜日	1 時限	講義室等	柔道場			
	後期	水曜日	1 時限	授業形式	実技			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
柔道実技審査に向けて、柔道の精神・体力・技の理合など基本的事項を理解させる。柔道経験がなく入学した学生の技能習熟の到達目標を柔道初段の取得に置き、初段程度の技量を習得させる。柔道の楽しさを知り、深める。得意技を作り、自由練習や試合等で生かすことができる。初段取得を目指す。					実技審査同様の実技試験(礼法を含む)			
教科書					参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	1年次復習 注意事項 ガイダンス(姿勢・礼法・受身)			第1回	投の形(足技) 送足払・支釣込足・内股			
第2回	前方回転受身 投技復習 大腰・背負投・一本背負投			第2回	投の形(足技) 送足払・支釣込足・内股			
第3回	前方回転受身 投技復習 背負落・釣込腰・体落			第3回	投の形(足技) 送足払・支釣込足・内股			
第4回	投技(足技) 支釣込足・膝車・大外刈・小外刈			第4回	投の形(手技復習) 浮落・背負投・肩車			
第5回	投技(足技・腰技) 小内刈・大内刈・出足払・送足払・払腰			第5回	投の形(手技復習) 浮落・背負投・肩車			
第6回	体さばき→移動打込 投の形(手技)浮落・背負投・肩車			第6回	投の形(腰技復習) 浮腰・払腰・釣込腰			
第7回	体さばき→移動打込 投の形(手技)浮落・背負投・肩車			第7回	投の形(腰技復習) 浮腰・払腰・釣込腰			
第8回	体さばき→移動打込 投の形(手技)浮落・背負投・肩車			第8回	投の形(足技復習) 送足払・支釣込足・内股			
第9回	抑技復習(全種類) 攻め方・返し技確認			第9回	投の形(足技復習) 送足払・支釣込足・内股			
第10回	抑技復習(全種類)乱取含む 攻め方・返し技確認・締技について			第10回	連続技(先の先) 研究して技を決め、約束乱取へ進む			
第11回	締技・関節技 寝技乱取			第11回	連続技(先の先) 研究して技を決め、約束乱取へ進む			
第12回	投の形(腰技) 浮腰・払腰・釣込腰			第12回	連続技(先の先) 研究して技を決め、約束乱取へ進む			
第13回	投の形(腰技) 浮腰・払腰・釣込腰			第13回	連続技(後の先) 研究して技を決め、約束乱取へ進む			
第14回	投の形(腰技) 浮腰・払腰・釣込腰			第14回	連続技(後の先) 研究して技を決め、約束乱取へ進む			
第15回	前期期末試験練習 寝技(全種類)・投の形(手技・腰技)			第15回	後期期末試験練習 投の形(足技)・連続技			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	外傷保存療法経過、治癒		単位数	1単位	選択 必修	必修
					時間数	30時間		
担当教員	檜原 康之			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	金曜日	2 時限	講義室等	2年教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
外傷性疾患の保存療法における経過、治癒判断について学習する。				定期試験 出欠席				
教科書				参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	骨折の保存療法① 目的・固定の選択			第1回				
第2回	骨折の保存療法② 骨折の取り扱い注意点			第2回				
第3回	骨折の保存療法③ 軟部組織の経過観察			第3回				
第4回	骨折の保存療法④ 物理療法の適応			第4回				
第5回	骨折の保存療法⑤ 運動療法の適応			第5回				
第6回	脱臼の保存療法① 整復の確認			第6回				
第7回	脱臼の保存療法② 軟部組織の経過観察			第7回				
第8回	脱臼の保存療法③ 物理療法の適応			第8回				
第9回	脱臼の保存療法④ 運動療法の適応			第9回				
第10回	脱臼の保存療法⑤ 治癒判定の目安			第10回				
第11回	軟部組織の保存療法① 鑑別の評価			第11回				
第12回	軟部組織の保存療法② 固定材料の選択			第12回				
第13回	軟部組織の保存療法③ 関節拘縮の考え方			第13回				
第14回	軟部組織の保存療法④ 運動療法の適応			第14回				
第15回	軟部組織の保存療法⑤ 治癒判定の目安			第15回				

授業科目 区 分	専 門	担当科目	柔道整復学各論Ⅰ		単位数	2単位	選択 必修	必修
					時間数	60時間		
担当教員	河島 侑里			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	3 時限	講義室等	2年教室			
	後期	火曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
上肢の骨折には、鎖骨骨折・上腕骨外科頸骨折・コーレス骨折・手指骨折といった日常でも発生頻度が高い骨折いくつかある。また国家試験での出題も多いため、基礎からしっかりと学んでいき復習にも重きを置く。				定期試験 出欠席				
教科書	柔道整復学・理論			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	鎖骨骨折 P220～225			第1回	前腕骨遠位端部骨折 P307～P312			
第2回	鎖骨骨折 P220～225			第2回	前腕骨遠位端部骨折 P307～P312			
第3回	肩甲骨骨折 P228～233			第3回	手根骨部の骨折 P313～P318			
第4回	上腕骨近位部骨折 P233～P239			第4回	手根骨部の骨折 P313～P318			
第5回	上腕骨近位部骨折 P233～P239			第5回	中手骨骨折 P328～P332			
第6回	上腕骨骨幹部骨折 P256～P262			第6回	中手骨骨折 P328～P332			
第7回	上腕骨骨幹部骨折 P256～P262			第7回	手指骨折 P334～P338			
第8回	上腕骨遠位部骨折 P266～P274			第8回	手指骨折 P334～P338			
第9回	上腕骨遠位部骨折 P266～P274			第9回	後期のまとめ 復習			
第10回	前腕骨近位部骨折 P274～P279			第10回	後期のまとめ 復習			
第11回	前腕骨骨幹部骨折 P288～P299			第11回	鎖骨・肩甲骨・上腕骨近位部骨折 復習			
第12回	前腕骨骨幹部骨折 P288～P299			第12回	上腕骨骨幹部・遠位部・前腕骨近位部 復習			
第13回	前腕骨骨幹部骨折 P288～P299			第13回	前腕骨骨幹部・遠位部骨折 復習			
第14回	前期のまとめ 復習			第14回	手根骨・中手骨・手指骨骨折 復習			
第15回	前期のまとめ 復習			第15回	通年のまとめ 復習			

授業科目 区 分	専門	担当科目	柔道整復学各論Ⅱ		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	檜原 康之			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月曜日	2 時限	講義室等	2年教室			
	後期	月曜日	2 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
脱臼の総論と各論を理解して、認定実技や国家試験の問題を解答できるようにする。					出欠席、前期・後期定期試験の総合評価			
教科書	全国柔道整復学校協会柔道整復理論、実技				参考書	最初の授業で紹介します		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	授業の解説 1年間の授業の進め方			第1回	前期の復習 前期の復習			
第2回	脱臼総論 1 1年の復習			第2回	股関節脱臼 1 理論の説明			
第3回	脱臼総論 2 1年の復習			第3回	股関節脱臼 2 整復法の説明			
第4回	肩鎖関節脱臼 1 理論の説明			第4回	股関節脱臼 3 股関節脱臼の種類の説明			
第5回	肩鎖関節脱臼 2 整復法の説明			第5回	膝関節脱臼 1 理論の説明			
第6回	肩関節脱臼 1 理論の説明			第6回	膝関節脱臼 2 整復法の説明			
第7回	肩関節脱臼 2 整復法の説明			第7回	膝蓋骨脱臼 1 理論の説明			
第8回	肩関節脱臼 3 肩関節脱臼の種類の説明			第8回	膝蓋骨脱臼 2 整復法の説明			
第9回	肘関節脱臼 1 理論の説明			第9回	足部の脱臼 1 理論の説明			
第10回	肘関節脱臼 2 整復法の説明			第10回	足部の脱臼 2 整復法の説明			
第11回	上肢の脱臼まとめ まとめ			第11回	足部の脱臼 3 足部脱臼の種類の説明			
第12回	手関節及び指の脱臼 1 理論の説明			第12回	脱臼総論復習 まとめ			
第13回	手関節及び指の脱臼 2 整復法の説明			第13回	脱臼各論まとめ まとめ			
第14回	手関節及び指の脱臼 3 脱臼の種類の説明			第14回	脱臼各論まとめ まとめ			
第15回	前期のまとめ テストの説明			第15回	後期のまとめ テストの説明			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	柔道整復学各論Ⅲ		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	鍋倉 祐貴			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月曜日	3 時限	講義室等	2年教室			
	後期	月曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
下肢の各骨折について部位別の発生機序、症状を理解し、柔道整復師が施術のできる骨折を理解しそれに対する整復、固定の方法、手順と実技を理解する。				定期試験、出欠席				
教科書	柔道整復学・理論編			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	骨盤骨折 骨盤骨単独骨折について			第1回	膝蓋骨骨折 概要			
第2回	骨盤骨折 裂離骨折 骨盤骨輪骨折について			第2回	膝蓋骨骨折 膝蓋骨骨折の整復、固定1			
第3回	大腿骨骨折 概要			第3回	膝蓋骨骨折 膝蓋骨骨折の整復、固定2			
第4回	大腿骨骨折 近位端部骨折			第4回	下腿骨骨折 近位端部骨折			
第5回	大腿骨骨折 近位端部骨折の整復			第5回	下腿骨骨折 骨幹部骨折			
第6回	大腿骨骨折 近位端部骨折の固定実技			第6回	下腿骨骨折 骨幹部骨折の整復			
第7回	大腿骨骨折 骨幹部骨折			第7回	下腿骨骨折 骨幹部骨折の固定			
第8回	大腿骨骨折 骨幹部骨折の整復			第8回	下腿骨骨折 遠位端部骨折と足関節脱臼骨折			
第9回	大腿骨骨折 骨幹部骨折の固定			第9回	下腿骨骨折 遠位端部骨折と足関節脱臼骨折の整復			
第10回	大腿骨骨折 遠位端部骨折			第10回	下腿骨骨折 遠位端部骨折と足関節脱臼骨折の固定			
第11回	大腿骨骨折 遠位端部骨折の整復			第11回	足・足指骨骨折 遠位端部骨折と足関節脱臼骨折の固定			
第12回	大腿骨骨折 遠位端部骨折の固定			第12回	足・足指骨骨折 足根骨骨折			
第13回	演習問題1 骨盤から大腿骨遠位端部までの確認			第13回	足・足指骨骨折 中足骨骨折			
第14回	演習問題2 大腿骨骨幹部から遠位端部までの確認			第14回	足・足指骨骨折 足指骨折			
第15回	まとめ 前期のまとめ			第15回	まとめ 後期のまとめ			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	臨床的判定(画像診断)		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	宇都野 創			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	歯科医師の資格を有し、歯科医院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	歯科医師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うよう教育する。							
学期区分	前期	水曜日	4 時限	講義室等	2年教室			
	後期	水曜日	4 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
柔道整復師は外傷を扱う関係上、他職種との連携が必要である。そのためレントゲンなどの画像を読み取れるようにする。					定期試験			
教科書	柔道整復術適応の臨床判定				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	ガイダンス			第1回	医用画像の理解 X線CTの概要			
第2回	医用画像の理解 医用画像とは			第2回	医用画像の理解 X線CTの概要			
第3回	医用画像の理解 放射線の概要			第3回	医用画像の理解 磁気共鳴検査の概要			
第4回	医用画像の理解 X線発生装置の概要			第4回	医用画像の理解 磁気共鳴検査の概要			
第5回	医用画像の理解 X線発生装置の概要			第5回	医用画像の理解 磁気共鳴検査の概要			
第6回	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法			第6回	医用画像の理解 磁気共鳴検査の概要			
第7回	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法			第7回	医用画像の理解 磁気共鳴検査の概要			
第8回	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法			第8回	医用画像の理解 超音波画像装置の概要			
第9回	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法			第9回	医用画像の理解 超音波画像装置の概要			
第10回	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法			第10回	医用画像の理解 超音波画像装置の概要			
第11回	医用画像の理解 画像のデジタル化			第11回	医用画像の理解 超音波画像装置の概要			
第12回	医用画像の理解 画像のデジタル化			第12回	医用画像の理解 超音波画像装置の概要			
第13回	医用画像の理解 X線CTの概要			第13回	医用画像の理解 核医学検査の概要			
第14回	医用画像の理解 X線CTの概要			第14回	医用画像の理解 核医学検査の概要			
第15回	復習 試験対策			第15回	総復習			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	包帯実技		単位数	1 単位	選択 必修	必修
					時間数	30 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	1 時限	講義室等	実技実習室			
	後期			授業形式	実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
基本的な包帯についての知識を学び、様々な固定法を実践できるようにする。				定期試験の得点 出席率 授業態度				
教科書	柔道整復学理論・実技編、包帯固定学			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション			第1回				
第2回	基本包帯法			第2回				
第3回	冠名包帯法			第3回				
第4回	部位別包帯法 上肢			第4回				
第5回	部位別包帯法 下肢			第5回				
第6回	治療法 整復法について			第6回				
第7回	治療法 固定法について			第7回				
第8回	治療法 後療法について			第8回				
第9回	治療法 後療法について			第9回				
第10回	治療法 指導管理について			第10回				
第11回	スポーツ外傷の治療法 腱板・上腕二頭筋腱損傷			第11回				
第12回	スポーツ外傷の治療法 大腿部損傷			第12回				
第13回	スポーツ外傷の治療法 膝周囲の損傷			第13回				
第14回	スポーツ外傷の治療法 下腿・足部の損傷			第14回				
第15回	試験対策			第15回				

授業科目 区 分	専 門	担当科目	柔道整復実技Ⅱ		単位数	5 単位	選 択 必 修	必 修
					時間数	150 時間		
担当教員	河島 侑里			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月曜日	1 時限	講義室等	実技実習室			
	後期	月曜日	1 時限	授業形式	講義・実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
解剖の復習を行いながら、頭部・体幹の損傷について学び、正確な知識を習得していく。				定期試験				
教科書	柔道整復学理論・実技編、解剖学			参考書	柔道整復外傷学ハンドブック			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈 前 期 〉				〈 後 期 〉				
第1回	頭部。顔面部の解剖と機能			第1回	胸部の解剖・胸骨骨折			
第2回	頭蓋冠骨折			第2回	胸椎の骨折			
第3回	頭蓋底骨折			第3回	胸椎の脱臼			
第4回	顔面頭蓋骨折 鼻骨・鼻軟骨・上顎・頬骨・下顎骨			第4回	胸背部の軟部組織損傷			
第5回	顎関節脱臼			第5回	胸部の損傷について復習			
第6回	頭部・顔面の軟部組織損傷 打撲・顎関節症			第6回	腰部の解剖			
第7回	頭部・顔面損傷について復習			第7回	腰部の骨折			
第8回	頸部の解剖と機能			第8回	腰部の脱臼			
第9回	頸椎の骨折			第9回	腰部の軟部組織損傷			
第10回	頸椎の脱臼			第10回	腰部の損傷について復習			
第11回	頸部の軟部組織損傷			第11回	手技療法(体部背面) 実技			
第12回	頸部の損傷について復習			第12回	手技療法(体部腹面) 実技			
第13回	肋骨部の解剖・肋骨骨折			第13回	肋骨骨折・腰部損傷(テーピング) 実技			
第14回	肋骨骨折			第14回	後期試験対策 第1～5回復習			
第15回	前期試験対策 第1回～14回範囲の総復習			第15回	後期試験対策 第6回～10回の復習			

授業科目 区 分	専門	担当科目	柔道整復実技Ⅱ	単位数	5 単位	選択 必修	必修
				時間数	150 時間		
担当教員	小宮山 潤		受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり				
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。						
学期区分	前期	木曜日	1 時限	講義室等	基礎医学実習室		
	後期	木曜日	1 時限	授業形式	実技		
授業のねらい、目標				成績評価の方法			
臨床現場での実技を学ぶ。				定期試験			
教科書	柔道整復学理論・実技			参考書			
履修上の 注意事項							
授業の計画(スケジュール)と授業の内容							
〈前 期〉			〈後 期〉				
第1回	ガイダンス 一年の復習		第1回	スポーツ臨床学 前期の復習			
第2回	スポーツ臨床学 上腕二頭筋損傷		第2回	スポーツ臨床学 大腿部肉離れ			
第3回	スポーツ臨床学 腱板損傷		第3回	スポーツ臨床学 ハムストリングス肉離れ			
第4回	スポーツ臨床学 野球肘		第4回	スポーツ臨床学 腓腹筋肉離れ			
第5回	スポーツ臨床学 テニス肘		第5回	スポーツ臨床学 アキレス腱断裂			
第6回	スポーツ臨床学 マレットフィンガー		第6回	スポーツ臨床学 足関節捻挫			
第7回	スポーツ臨床学 SLAP損傷		第7回	スポーツ臨床学 膝関節捻挫			
第8回	スポーツ臨床学 肩関節脱臼		第8回	スポーツ臨床学 膝関節捻挫			
第9回	スポーツ臨床学 肩鎖関節脱臼		第9回	スポーツ臨床学 ジャンパーズ・ニー			
第10回	スポーツ臨床学 肘関節脱臼		第10回	スポーツ臨床学 オスグッド病			
第11回	スポーツ臨床学 ボクサー骨折		第11回	スポーツ臨床学 ランナーズ・ニー			
第12回	スポーツ臨床学 手関節捻挫		第12回	スポーツ臨床学 下腿疲労骨折			
第13回	スポーツ臨床学 肘関節捻挫		第13回	スポーツ臨床学 足部疲労骨折			
第14回	スポーツ臨床学 肩関節捻挫		第14回	スポーツ臨床学 足底腱膜炎			
第15回	スポーツ臨床学 まとめ		第15回	スポーツ臨床学 まとめ			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	柔道整復実技Ⅱ		単位数	5 単位	選択 必修	必修
					時間数	150 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期				講義室等	実技実習室		
	後期	火曜日	1 時限		授業形式	講義 実技		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
認定実技審査の対策授業（整復）と国家試験対策の授業をします。					出席、中間テスト、期末テストの総合で評価します。			
教科書	全国柔道整復学校協会柔道整復理論、実技				参考書	最初の授業で紹介します		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回				第1回	ガイダンス			
第2回				第2回	上肢の軟部組織損傷 腱板損傷			
第3回				第3回	上肢の軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷			
第4回				第4回	下肢の軟部組織損傷 大腿部肉離れ			
第5回				第5回	下肢の軟部組織損傷 ハムストリングス肉離れ			
第6回				第6回	下肢の軟部組織損傷 膝半月板損傷			
第7回				第7回	下肢の軟部組織損傷 膝十字靱帯損傷			
第8回				第8回	下肢の軟部組織損傷 膝側副靱帯損傷			
第9回				第9回	復習 小テスト			
第10回				第10回	下肢の軟部組織損傷 腓腹筋肉離れ			
第11回				第11回	下肢の軟部組織損傷 腓腹筋肉離れ			
第12回				第12回	下肢の軟部組織損傷 足関節捻挫			
第13回				第13回	口頭試問対策 上肢・下肢軟部組織損傷			
第14回				第14回	復習 小テスト			
第15回				第15回	まとめ 試験対策			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	臨床実習	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	90 時間			
担当教員	檜原康之、飯田秀男、小宮山 潤、鍋倉祐貴			受講学科	柔道整復師学科		学 年	2 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月・火・木・金曜日 4・5時限			講義室等	附属接骨院・2年教室		
	後期	月・火・木曜日 4・5時限			授業形式	実習		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
医療人としての知識・技術・立ち振る舞いを身につける。					各回ごとの平均点で評価			
教科書					参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	臨床実習 1 態度・接遇・付帯業務			第1回	臨床実習 16 診察			
第2回	臨床実習 2 態度・接遇・付帯業務			第2回	臨床実習 17 診察			
第3回	臨床実習 3 施術の介助			第3回	臨床実習 18 診察			
第4回	臨床実習 4 施術の介助			第4回	臨床実習 19 固定の補助			
第5回	臨床実習 5 物理療法			第5回	臨床実習 20 固定の補助			
第6回	臨床実習 6 物理療法			第6回	臨床実習 21 固定の補助			
第7回	臨床実習 7 物理療法			第7回	臨床実習 22 固定の補助			
第8回	臨床実習 8 物理療法			第8回	臨床実習 23 固定			
第9回	臨床実習 9 診察の補助			第9回	臨床実習 24 固定			
第10回	臨床実習 10 診察の補助			第10回	臨床実習 25 固定			
第11回	臨床実習 11 診察の補助			第11回	臨床実習 26 固定			
第12回	臨床実習 12 診察の補助			第12回	臨床実習 27 固定			
第13回	臨床実習 13 診察の補助			第13回	臨床実習 28 固定			
第14回	臨床実習 14 診察の補助			第14回	臨床実習 29 実習試験			
第15回	臨床実習 15 診察			第15回	臨床実習 30 実習試験			

授 業 計 画

(2026年度)

柔道整復師学科 3年生

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	外科学概論		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	河島 侑里			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識を養うとともに、病院と接骨院との関わりについて教育する。							
学期区分	前期	火曜日	1 時限	講義室等	3年教室またはPC教室			
	後期	火曜日	1 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
1. 柔道整復師として知るべき外科学の基本的な知識と考え方を身につける。 2. 柔道整復師の業務に関係の深い事項については簡潔に説明できる。				定期試験(客観式および記述式筆記試験)で60点以上を合格とする				
教科書	全国柔道整復学校協会監修 外科学概論 改訂第4版			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	外科学とは 損傷(1) 損傷			第16回	確認テスト③ 麻酔～心肺蘇生法			
第2回	損傷(2) 創傷 熱傷			第17回	脳神経外科疾患(1) 主要徴候～頭部外傷			
第3回	炎症と外科感染症			第18回	脳神経外科疾患(2) 脳血管障害 脳腫瘍			
第4回	腫瘍(1) 概念～発育形式			第19回	甲状腺・頸部疾患 胸壁・呼吸器疾患(1)総論 肺腫瘍			
第5回	腫瘍(2) 症状 診断 治療 疫学			第20回	胸壁・呼吸器疾患(2) その他の肺疾患 胸膜疾患 胸部外傷			
第6回	確認テスト① 損傷～腫瘍			第21回	確認テスト④ 脳神経外科疾患～胸壁・呼吸器疾患			
第7回	ショック			第22回	心臓疾患			
第8回	輸血・輸液(1) 輸 血			第23回	脈管疾患			
第9回	輸血・輸液(2) 輸 液			第24回	乳腺疾患			
第10回	消毒と滅菌 手術			第25回	確認テスト⑤ 心臓疾患 脈管疾患 乳腺疾患			
第11回	確認テスト② ショック～手術			第26回	腹部外科疾患(1) 総 論			
第12回	麻 酔			第27回	腹部外科疾患(2) 食道 胃・十二指腸 大腸疾患			
第13回	移植と免疫			第28回	腹部外科疾患(3) 肝・胆・膵疾患 急性虫垂炎 ヘルニア			
第14回	出血と止血			第29回	腹部外科疾患(4) イレウス 肛門疾患 腹部外傷			
第15回	心肺蘇生法			第30回	確認テスト⑥ 腹部外科疾患			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	整形外科学		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	河島 侑里			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	木曜日	1 時限	講義室等	3年教室			
	後期	木曜日	1 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
整形外科学は、四肢の外傷にとどまらず、変形性関節症に代表される退行性疾患、関節リウマチ等の非化膿性炎症性疾患、脊椎疾患、末梢神経傷害、骨軟部腫瘍等骨・関節のみならず筋・腱・末梢神経・血管を含む幅広い分野をその対象としている。また、その診断技術や手術を含めた治療方法について近代整形外科学をもとにした柔道整復臨床に必要と考えられる知識を理解する。					定期試験の成績、授業への出席状況を基本とする。			
教科書	整形外科学(学校協会編)				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	整形外科とは 整形外科とは			第1回	感染性疾患 感染性疾患			
第2回	運動器の基礎知識 運動器の基礎知識			第2回	骨腫瘍 骨腫瘍			
第3回	運動器の基礎知識 運動器の基礎知識			第3回	骨関節疾患 骨関節疾患			
第4回	診察法 診察法			第4回	全身性の骨疾患 全身性の骨疾患			
第5回	診察法 診察法			第5回	骨端症 骨端症			
第6回	検査法 検査法			第6回	循環障害 循環障害			
第7回	検査法 検査法			第7回	神経疾患 神経疾患			
第8回	治療法 治療法			第8回	神経疾患 神経疾患			
第9回	治療法 治療法			第9回	身体部位各論 体幹部			
第10回	骨関節損傷 骨関節損傷			第10回	身体部位各論 胸部			
第11回	骨関節損傷 骨関節損傷			第11回	身体部位各論 腰部			
第12回	骨関節損傷 骨関節損傷			第12回	身体部位各論 上肢			
第13回	スポーツ障害 スポーツ障害			第13回	身体部位各論 下肢			
第14回	リハビリテーション総論 リハビリテーション総論			第14回	身体部位各論 総括			
第15回	まとめ			第15回	まとめ			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	柔道Ⅲ		単位数	1 単位	選択 必修	必修
					時間数	30 時間		
担当教員	飯田 秀男 丸尾 泉			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	水曜日	3 時限	講義室等	柔道場			
	後期			授業形式	実技			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
・柔道を得意にし、生涯にわたって柔道に親しむ。 ・技の連絡変化(連続技)を身に付け、得意技を磨く。 ・投の形・柔の形をしっかりと習得する。				認定実技審査同様の実技試験 5分以内				
教科書				参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	2年次復習・注意事項 ガイダンス(実技審査の流れ)			第1回				
第2回	投の形(手技)受取交代 約束乱取 連続技			第2回				
第3回	投の形(手技)受取交代 約束乱取 連続技			第3回				
第4回	投の形(腰技) 受取交代 連続技 約束乱取			第4回				
第5回	投の形(腰技) 受取交代 連続技 約束乱取			第5回				
第6回	投の形(足技) 受取交代 連続技 約束乱取			第6回				
第7回	投の形(足技) 受取交代 連続技 約束乱取			第7回				
第8回	全体のレベルを上げる ポイントをつかみ意識する			第8回				
第9回	全体を通して練習 入退場練習			第9回				
第10回	全体を通して練習 タイムキーパーを使って			第10回				
第11回	全体を通して練習 タイムキーパーを使って			第11回				
第12回	投の形(手技)受取交代 実技審査通りにまとめ			第12回				
第13回	投の形(腰技) 受取交代 実技審査通りにまとめ			第13回				
第14回	投の形(足技) 受取交代 実技審査通りにまとめ			第14回				
第15回	前期期末試験練習 全体のまとめ			第15回				

授業科目 区 分	専 門	担当科目	関係法規		単位数	2 単位	選択 必修	必修
					時間数	60 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月曜日	1 時限	講義室等	3年教室			
	後期	月曜日	1 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
柔道整復師が医療に携わる者として必要な法令を学び、倫理観を持つ。				定期試験、出欠席				
教科書	関係法規			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション			第1回	柔道整復師法とその関連内容10 罰則1			
第2回	序論1 法の意義、体系			第2回	柔道整復師法とその関連内容11 罰則2			
第3回	序論2 柔道整復師に関する法律			第3回	柔道整復師法とその関連内容12 指定登録機関及び指定試験			
第4回	序論3 患者の権利			第4回	柔道整復師法とその関連内容13 附則			
第5回	柔道整復師法とその関連内容1 柔道整復師法の目的			第5回	関係法規1 医療従事者の資格法1			
第6回	柔道整復師法とその関連内容2 柔道整復師免許			第6回	関係法規2 医療従事者の資格法2			
第7回	柔道整復師法とその関連内容3 柔道整復師名簿			第7回	関係法規3 医療従事者の資格法3			
第8回	柔道整復師法とその関連内容4 柔道整復師国家試験			第8回	関係法規4 医療法1			
第9回	柔道整復師法とその関連内容5 合格証書と合格証明書			第9回	関係法規5 医療法2			
第10回	柔道整復師法とその関連内容6 業務1			第10回	関係法規6 医療法3			
第11回	柔道整復師法とその関連内容7 業務2			第11回	関係法規7 姿顔福祉関係法規			
第12回	柔道整復師法とその関連内容8 施術所			第12回	関係法規8 社会保険関係法規			
第13回	柔道整復師法とその関連内容9 雑則			第13回	関係法規9 その他の関係法規			
第14回	前期のまとめ			第14回	後期のまとめ			
第15回	小テスト			第15回	小テスト 1年間の復習			

授業科目 区 分	専門基礎	担当科目	社会保障制度		単位数	1 単位	選択 必修	必修
					時間数	30 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	金曜日	2 時限	講義室等	3年教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
柔道整復師が医療に携わる者として必要な法令を学び、倫理観を持つ。				定期試験、出欠席				
教科書	関係法規 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	オリエンテーション 序			第1回				
第2回	わが国の社会保障 社会保障とは			第2回				
第3回	わが国の社会保障 社会保障制度とは			第3回				
第4回	わが国の社会保障 医療保険制度とは			第4回				
第5回	柔道整復師業務における療養費 療養費制度の概要			第5回				
第6回	柔道整復師業務における療養費 療養費とは			第6回				
第7回	柔道整復師業務における療養費 柔道整復療養費			第7回				
第8回	柔道整復師業務における療養費 柔道整復療養費の推移			第8回				
第9回	柔道整復師業務における療養費 療養費の算定			第9回				
第10回	柔道整復師業務における療養費 療養費請求のケーススタディ			第10回				
第11回	職業倫理 医療従事者の職業倫理			第11回				
第12回	職業倫理 柔道整復師に必要な基本的倫理観			第12回				
第13回	職業倫理 柔道整復師の社会的責任と対応			第13回				
第14回	職業倫理 グループディスカッション			第14回				
第15回	職業倫理 医療における情報と責任			第15回				

授業科目 区 分	専 門	担当科目	基礎柔道整復学Ⅱ		単位数	5 単位	選択 必修	必修
					時間数	150 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月曜日	3 時限	講義室等	3年教室・実技実習室			
	後期	月曜日	3 時限	授業形式	講義 実技			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
認定実技審査の軟部組織損傷の科目を5分間で実践できるようにする。認定実技審査後は国家試験対策を座学でおこない、出題率の高い科目や分野を中心に学習する。					定期試験			
教科書	柔道整復学理論編・実技編				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	ガイダンス 認定実技審査要項の読み合わせ			第1回	認定実技対策練習 5分間練習			
第2回	上肢の軟部組織損傷 腱板損傷			第2回	認定実技対策練習 5分間練習			
第3回	上肢の軟部組織損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷			第3回	認定実技対策練習 5分間練習			
第4回	下肢の軟部組織損傷 大腿部肉離れ			第4回	認定実技対策練習 5分間練習			
第5回	下肢の軟部組織損傷 ハムストリングス肉離れ			第5回	国家試験対策 衛生学 健康の概念			
第6回	下肢の軟部組織損傷 膝半月板損傷			第6回	国家試験対策 衛生学 感染症			
第7回	下肢の軟部組織損傷 膝十字靱帯損傷			第7回	国家試験対策 衛生学 消毒			
第8回	下肢の軟部組織損傷 膝側副靱帯損傷			第8回	国家試験対策 衛生学 環境衛生			
第9回	復習 小テスト			第9回	国家試験対策 衛生学 生活環境			
第10回	下肢の軟部組織損傷 腓腹筋肉離れ			第10回	国家試験対策 衛生学 母子保健			
第11回	下肢の軟部組織損傷 腓腹筋肉離れ			第11回	国家試験対策 衛生学 学校保健			
第12回	下肢の軟部組織損傷 足関節捻挫			第12回	国家試験対策 衛生学 産業保健			
第13回	口頭試問対策 上肢・下肢軟部組織損傷			第13回	国家試験対策 衛生学 成人・高齢者保健			
第14回	復習 小テスト			第14回	国家試験対策 衛生学 精神保健			
第15回	前期まとめ 試験対策			第15回	国家試験対策 衛生学 地域保健から			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	基礎柔道整復学Ⅱ		単位数	5 単位	選択 必修	必修
					時間数	150 時間		
担当教員	小宮山 潤			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	月曜日	2 時限	講義室等	3年教室			
	後期	月曜日	2 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
国家試験に向けて大詰めとなる年。国家試験合格に向けて苦手を克服していく。				定期試験				
教科書	生理学 運動学 柔道整復学 理論編			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	国家試験対策 運動学 運動の目的・運動の表し方・身体運動と力学			第1回	国家試験対策 生理学 循環の生理学			
第2回	国家試験対策 運動学 運動器の構造と機能			第2回	国家試験対策 生理学 呼吸の生理学			
第3回	国家試験対策 運動学 神経の構造と機能			第3回	国家試験対策 生理学 消化と吸収			
第4回	国家試験対策 運動学 運動感覚			第4回	国家試験対策 生理学 栄養と代謝			
第5回	国家試験対策 運動学 反射と随意運動			第5回	国家試験対策 生理学 体温調節			
第6回	国家試験対策 運動学 四肢体幹の運動			第6回	国家試験対策 生理学 尿の生成と排泄			
第7回	国家試験対策 運動学 四肢体幹の運動			第7回	国家試験対策 生理学 内分泌系の機能			
第8回	国家試験対策 運動学 四肢体幹の運動			第8回	国家試験対策 生理学 内分泌系の機能			
第9回	国家試験対策 運動学 四肢体幹の運動			第9回	国家試験対策 生理学 生殖			
第10回	国家試験対策 運動学 姿勢			第10回	国家試験対策 生理学 骨の生理学			
第11回	国家試験対策 運動学 歩行			第11回	国家試験対策 生理学 体液の生理学			
第12回	国家試験対策 運動学 運動発達			第12回	国家試験対策 生理学 神経の基本的機能			
第13回	国家試験対策 運動学 運動学習			第13回	国家試験対策 生理学 神経系の機能			
第14回	国家試験対策 生理学 生理学の基礎			第14回	国家試験対策 生理学 筋肉の機能			
第15回	国家試験対策 生理学 血液の生理学			第15回	国家試験対策 生理学 感覚の生理学			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	基礎柔道整復学Ⅱ		単位数	5 単位	選択 必修	必修
					時間数	150 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	金曜日			2 時限	講義室等	3年教室	
	後期				授業形式	講義		
授業のねらい、目標						成績評価の方法		
総論中心に復習していく。						定期試験、出欠席		
教科書	柔道整復学・理論編					参考書		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回				第1回	オリエンテーション 柔道整復術とは			
第2回				第2回	柔道整復の業務範囲 柔道整復術を施すための心構え			
第3回				第3回	身体の基礎的状态 損傷時に加わる力			
第4回				第4回	骨折の定義 骨損傷の分類			
第5回				第5回	骨折の程度による分類 骨折の固有症状			
第6回				第6回	骨折時の全身症状 骨折の治癒に影響を与える因子			
第7回				第7回	偽関節の発生原因 まとめ			
第8回				第8回	小テスト			
第9回				第9回	関節の損傷 関節の構成に関わる組織損傷			
第10回				第10回	靱帯の損傷 関節周辺を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷			
第11回				第11回	神経・血管の損傷 関節部に分布・通過するもの			
第12回				第12回	捻挫・脱臼 総論			
第13回				第13回	脱臼の原因による分類 脱臼固有症状			
第14回				第14回	軟部組織損傷 打撲			
第15回				第15回	末梢神経、血管系、リンパ系損傷 まとめ			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8 単位	選択 必修	必修
					時間数	240 時間		
担当教員	小宮山 潤			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	4 時限	講義室等	3年教室			
	後期	火曜日	4 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
●認定実技審査では口頭試問が課題の一つである。柔整理論を復習するとともに、解剖学・柔整実技などとも合わせて見直し、口頭試問をとれるようにする。				定期試験、出欠席				
教科書	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版)			参考書	ネッター解剖学アトラス(南江堂) プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	国家試験対策1 解剖学総論・組織学・発生学			第1回	骨折総論			
第2回	国家試験対策2 骨の構造			第2回	脱臼総論			
第3回	国家試験対策3 筋の構造			第3回	軟部組織損傷総論 治療法			
第4回	国家試験対策4 脈管系			第4回	骨折各論 鎖骨骨折			
第5回	国家試験対策5 消化器系			第5回	骨折各論 外科頸骨折			
第6回	国家試験対策6 呼吸器系			第6回	骨折各論 コーレス骨折			
第7回	国家試験対策7 泌尿器系			第7回	脱臼各論 肩鎖関節脱臼			
第8回	国家試験対策8 生殖器系			第8回	脱臼各論 肩関節脱臼			
第9回	国家試験対策9 内分泌系			第9回	脱臼各論 肘関節脱臼			
第10回	国家試験対策10 中枢神経系1			第10回	軟部組織損傷総論各論 腱板損傷 上腕二頭筋長頭腱損傷			
第11回	国家試験対策11 中枢神経系2			第11回	軟部組織損傷各論 大腿四頭筋 ハムストリングス肉離れ			
第12回	国家試験対策12 末梢神経系1			第12回	軟部組織損傷各論 膝十字靱帯 側副靱帯 半月板損傷			
第13回	国家試験対策13 末梢神経系2			第13回	軟部組織損傷各論 下腿肉離れ アキレス腱断裂			
第14回	国家試験対策14 感覚器系1			第14回	軟部組織損傷 各論 足関節捻挫			
第15回	国家試験対策15 解剖学 総復習			第15回	まとめ			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8 単位	選択 必修	必修
					時間数	240 時間		
担当教員	鍋倉祐貴			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	木曜日	4 時限	講義室等	3年教室			
	後期	木曜日	4 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
過去問題、模試の国家試験対策授業				定期試験				
教科書	衛生学・公衆衛生学(学校協会編)			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	国家試験対策 鎖骨骨折			第1回	国家試験対策 骨盤骨折			
第2回	国家試験対策 肩甲骨・上腕骨近位端骨折			第2回	国家試験対策 大腿骨頸部骨折			
第3回	国家試験対策 上腕骨遠位端骨折			第3回	国家試験対策 大腿骨骨幹部骨折			
第4回	国家試験対策 前腕骨近位端骨折			第4回	国家試験対策 大腿骨遠位端部骨折			
第5回	国家試験対策 前腕骨遠位端骨折			第5回	国家試験対策 下腿骨近位端部骨折			
第6回	国家試験対策 手根骨骨折			第6回	国家試験対策 膝蓋骨骨折			
第7回	国家試験対策 手指骨折			第7回	国家試験対策 下腿骨骨幹部骨折			
第8回	国家試験対策 鎖骨脱臼			第8回	国家試験対策 下腿骨遠位端部骨折			
第9回	国家試験対策 肩関節脱臼			第9回	国家試験対策 足根骨骨折			
第10回	国家試験対策 肘関節脱臼			第10回	国家試験対策 股関節脱臼			
第11回	国家試験対策 手関節部脱臼			第11回	国家試験対策 膝関節・膝蓋骨脱臼			
第12回	国家試験対策 軟部組織肩関節部			第12回	国家試験対策 軟部組織股関節部			
第13回	国家試験対策 軟部組織肘関節部			第13回	国家試験対策 軟部組織膝関節部			
第14回	国家試験対策 軟部組織手関節部			第14回	国家試験対策 軟部組織下腿部			
第15回	国家試験対策 まとめ			第15回	国家試験対策 まとめ			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8 単位	選択 必修	必修
					時間数	240 時間		
担当教員	小島 弘光			受講学科	柔道整復師学科		学年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	木曜日	3 時限	講義室等	3年教室・実技実習室			
	後期	木曜日	3 時限	授業形式	講義 実技			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
認定実技審査に向けて、固定法を学ぶ。認定実技審査で、どの科目にも対応できる実践力をつける。					定期試験(実技試験)・出席率			
教科書	柔道整復学・実技編(学校協会編)				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	ガイダンス 他 肩鎖関節上方脱臼 固定			第1回	復習			
第2回	肩関節前方脱臼 固定			第2回	復習			
第3回	肩関節前方脱臼 固定			第3回	認定実技対策練習			
第4回	肘関節後方脱臼 固定			第4回	認定実技対策練習			
第5回	肘関節後方脱臼 固定			第5回	認定実技対策練習			
第6回	コーレス骨折 固定			第6回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第7回	コーレス骨折 固定			第7回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第8回	鎖骨骨折 固定			第8回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第9回	鎖骨骨折 固定			第9回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第10回	上腕骨骨幹部骨折 固定			第10回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第11回	上腕骨骨幹部骨折 固定			第11回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第12回	第5中手骨頸部骨折 固定			第12回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第13回	手第2指PIP関節背側脱臼 固定			第13回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第14回	肋骨骨折			第14回	国家試験対策 (柔道整復学)			
第15回	前期まとめ			第15回	国家試験対策 (柔道整復学)			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8 単位	選択 必修	必修
					時間数	240 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	金曜日	1 時限	講義室等	3年教室			
	後期			授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
筆記試験対策として基礎知識と応用知識を習得する。				定期試験				
教科書	解剖学			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	認定実技対策 膝関節テーピング			第1回				
第2回	認定実技対策 膝関節テーピング			第2回				
第3回	認定実技対策 膝関節テーピング			第3回				
第4回	認定実技対策 足関節テーピング			第4回				
第5回	認定実技対策 足関節テーピング			第5回				
第6回	認定実技対策 足関節テーピング			第6回				
第7回	認定実技対策 アキレス腱断裂固定			第7回				
第8回	認定実技対策 アキレス腱断裂固定			第8回				
第9回	認定実技対策 アキレス腱断裂固定			第9回				
第10回	認定実技対策 下腿骨骨幹部骨折			第10回				
第11回	認定実技対策 下腿骨骨幹部骨折			第11回				
第12回	認定実技対策 下腿骨骨幹部骨折			第12回				
第13回	認定実技対策 総復習			第13回				
第14回	認定実技対策 総復習			第14回				
第15回	認定実技対策 小テスト			第15回				

授業科目 区 分	専 門	担当科目	臨床柔道整復学		単位数	8 単位	選択 必修	必修
					時間数	240 時間		
担当教員	飯田 秀男			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期				講義室等	3年教室		
	後期	金曜日	1 時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
国家試験レベルの問題で80%以上の正答率となるように、身体の構造を単位ごとに復習し系統的に理解する。					定期試験(100点満点)により評価し、60点以上を合格とする。			
教科書	解剖学 改訂第2版(医歯薬出版)				参考書	ネッター解剖学アトラス(南江堂) プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回				第1回	国家試験対策1 解剖学総論・組織学・発生学			
第2回				第2回	国家試験対策2 骨の構造			
第3回				第3回	国家試験対策3 筋の構造			
第4回				第4回	国家試験対策4 脈管系			
第5回				第5回	国家試験対策5 消化器系			
第6回				第6回	国家試験対策6 呼吸器系			
第7回				第7回	国家試験対策7 泌尿器系			
第8回				第8回	国家試験対策8 生殖器系			
第9回				第9回	国家試験対策9 内分泌系			
第10回				第10回	国家試験対策10 中枢神経系1			
第11回				第11回	国家試験対策11 中枢神経系2			
第12回				第12回	国家試験対策12 末梢神経系1			
第13回				第13回	国家試験対策13 末梢神経系2			
第14回				第14回	国家試験対策14 感覚器系			
第15回				第15回	国家試験対策15 解剖学 総復習			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	柔道整復実技Ⅲ		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	120 時間		
担当教員	國友 康晴			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	3 時限	講義室等	実技実習室・3年教室			
	後期	火曜日	3 時限	授業形式	実技 講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
認定実技審査の対策授業（整復）と国家試験対策の授業をします。					出席、中間テスト、期末テストの総合で評価します。			
教科書	全国柔道整復学校協会柔道整復理論、実技				参考書	最初の授業で紹介します		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	授業の解説 1年間の授業の進め方			第1回	脱臼テスト ロールプレイテスト			
第2回	肩関節脱臼 解説と練習			第2回	骨折テスト ロールプレイテスト			
第3回	肩関節脱臼 ロールプレイテスト			第3回	認定実技審査練習 ロールプレイテスト			
第4回	肘関節脱臼 解説と練習			第4回	認定実技審査練習 ロールプレイテスト			
第5回	肘関節脱臼 ロールプレイテスト			第5回	国家試験対策説明 解説			
第6回	肩鎖関節脱臼 解説と練習			第6回	国家試験対策 テスト			
第7回	肩鎖関節脱臼 ロールプレイテスト			第7回	国家試験対策 テスト			
第8回	脱臼テスト ロールプレイテスト			第8回	国家試験対策 テスト			
第9回	コーレス骨折 解説と練習			第9回	国家試験対策 テスト			
第10回	コーレス骨折 ロールプレイテスト			第10回	国家試験対策 テスト			
第11回	鎖骨骨折 解説と練習			第11回	国家試験対策 テスト			
第12回	鎖骨骨折 ロールプレイテスト			第12回	国家試験対策 テスト			
第13回	上腕骨外科頸骨折 解説と練習			第13回	国家試験対策 テスト			
第14回	上腕骨外科頸骨折 ロールプレイテスト			第14回	国家試験対策 テスト			
第15回	骨折テスト ロールプレイテスト			第15回	国家試験対策 テスト			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	柔道整復実技Ⅲ		単位数	4 単位	選択 必修	必修
					時間数	120 時間		
担当教員	小宮山 潤			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	木曜日	2 時限	講義室等	実技実習室・3年教室			
	後期	木曜日	2 時限	授業形式	実技 講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
認定実技審査の対策授業（整復）と国家試験対策の授業をします。					出席、中間テスト、期末テストの総合で評価します。			
教科書	全国柔道整復学校協会柔道整復理論、実技				参考書	最初の授業で紹介します		
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	授業の解説 1年間の授業の進め方			第1回	脱臼テスト ロールプレイテスト			
第2回	肩関節脱臼 解説と練習			第2回	骨折テスト ロールプレイテスト			
第3回	肩関節脱臼 ロールプレイテスト			第3回	認定実技審査練習 ロールプレイテスト			
第4回	肘関節脱臼 解説と練習			第4回	認定実技審査練習 ロールプレイテスト			
第5回	肘関節脱臼 ロールプレイテスト			第5回	国家試験対策説明 解説			
第6回	肩鎖関節脱臼 解説と練習			第6回	国家試験対策 テスト			
第7回	肩鎖関節脱臼 ロールプレイテスト			第7回	国家試験対策 テスト			
第8回	脱臼テスト ロールプレイテスト			第8回	国家試験対策 テスト			
第9回	コーレス骨折 解説と練習			第9回	国家試験対策 テスト			
第10回	コーレス骨折 ロールプレイテスト			第10回	国家試験対策 テスト			
第11回	鎖骨骨折 解説と練習			第11回	国家試験対策 テスト			
第12回	鎖骨骨折 ロールプレイテスト			第12回	国家試験対策 テスト			
第13回	上腕骨外科頸骨折 解説と練習			第13回	国家試験対策 テスト			
第14回	上腕骨外科頸骨折 ロールプレイテスト			第14回	国家試験対策 テスト			
第15回	骨折テスト ロールプレイテスト			第15回	国家試験対策 テスト			

授業科目 区 分	専 門	担当科目	高齢者、競技者の外傷 予防、臨床実習前試験	単位数	2 単位	選択 必修	必修	
				時間数	60 時間			
担当教員	檜原 康之			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	水曜日	4 時限	講義室等	3年教室			
	後期	水曜日	4 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
柔道整復師が医療に携わる者として必要な知識を学び、倫理観を持つ。				定期試験 出欠席				
教科書	競技者の外傷予防			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	運動の生理学の概要 運動が生体に与える影響			第1回	競技者の外傷予防概論 外傷の発生要因			
第2回	運動の生理学の概要 運動が生体に与える影響			第2回	競技者の外傷予防概論 外傷の予防対策			
第3回	運動の生理学の概要 運動とエネルギー代謝			第3回	競技者の外傷予防概論 外傷の予防対策			
第4回	運動の生理学の概要 運動とエネルギー代謝			第4回	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック			
第5回	運動の生理学の概要 運動と骨・筋肉			第5回	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック			
第6回	運動の生理学の概要 運動と骨・筋肉			第6回	競技者の外傷予防のための実技 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際			
第7回	運動の生理学の概要 運動と呼吸・循環			第7回	競技者の外傷予防のための実技 外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際			
第8回	運動の生理学の概要 運動と呼吸・循環			第8回	種目別の外傷予防とその実際 柔道における肩関節の外傷予防			
第9回	運動の生理学の概要 運動とホルモン			第9回	種目別の外傷予防とその実際 柔道における肩関節の外傷予防			
第10回	運動の生理学の概要 運動とホルモン			第10回	種目別の外傷予防とその実際 水泳における体幹の傷害予防			
第11回	運動の生理学の概要 競技者の運動生理学的特徴			第11回	種目別の外傷予防とその実際 水泳における体幹の傷害予防			
第12回	運動の生理学の概要 競技者の運動生理学的特徴			第12回	種目別の外傷予防とその実際 バスケットボールにおける膝関節の外傷予防			
第13回	競技者の外傷予防概論 競技者の外傷予防の概要			第13回	種目別の外傷予防とその実際 サッカーにおける足関節の外傷予防			
第14回	競技者の外傷予防概論 競技者の外傷予防の概要			第14回	種目別の外傷予防とその実際 成長期の外傷予防			
第15回	競技者の外傷予防概論 外傷の発生要因			第15回	種目別の外傷予防とその実際 高齢者の外傷予防			

授業科目 区 分	選択	担当科目	国家試験対策 (生理学・内科学)	単位数		選択 必修	必修	
				時間数	360時間			
担当教員	清水鉄朗			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	-	実務経験	-					
実務経験 の運用								
学期区分	前期	水曜日	1・2 時限	講義室等	3年教室			
	後期	水曜日	1・2 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
人体の働き、機能がもし異常になればどうなるかを考える。生理学を復習しながらも、一般臨床医学・病理学・衛生学と関連をつける。さらに生理学の各単元別の過去問題を解き選択別問題に慣れる。後半は国家試験対策として問題数を増やす。				定期試験				
教科書	生理学(学校協会編)			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	生理学及び解剖学の基礎① 感染症・過去問①			第1回	生殖器の解剖学 腎・泌尿器疾患・過去問⑧			
第2回	血液の生理学① 感染症・過去問①			第2回	生殖 腎・泌尿器疾患・過去問⑧			
第3回	循環の解剖学、生理学 血液疾患・過去問②			第3回	運動器の解剖学 内分泌疾患・過去問⑨			
第4回	循環の解剖学、生理学 血液疾患・過去問②			第4回	骨の生理学 内分泌疾患・過去問⑩・⑪			
第5回	呼吸器系の解剖学、生理学① 自己免疫疾患・免疫不全②			第5回	体液の生理学 神経・筋疾患・過去問⑭			
第6回	呼吸器系の解剖学、生理学① 自己免疫疾患・免疫不全②			第6回	神経の基本的構造 神経・筋疾患・過去問⑮・⑯			
第7回	消化系の解剖学① 循環器疾患・過去問③			第7回	神経系の解剖学 病理学との関連			
第8回	消化と吸収 循環器疾患・過去問③			第8回	神経系の解剖学 国家試験対策①			
第9回	栄養と代謝 呼吸器疾患・過去問④			第9回	神経系の機能 国家試験対策②			
第10回	体温とその調節 呼吸器疾患・過去問④			第10回	神経系の機能 国家試験対策③			
第11回	泌尿器系の解剖学 消化器疾患・過去問⑤			第11回	感覚器の解剖学 国家試験対策①			
第12回	尿の生成と排泄 消化器疾患・過去問⑤			第12回	感覚の生理学 国家試験対策②			
第13回	内分泌系の機能 代謝・栄養疾患・過去問⑥⑦			第13回	臨床医学 総論 国家試験対策③			
第14回	内分泌系の機能 代謝・栄養疾患・過去問⑫			第14回	症状とその臨床的意義 国家試験対策①			
第15回	前期試験対策			第15回	後期試験対策			

授業科目 区 分	選択	担当科目	国家試験対策講座		単位数		選択 必修	必修
					時間数	360 時間		
担当教員	河島 侑里			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	火曜日	2 時限	講義室等	3年教室			
	後期	火曜日	2 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
柔道整復学・整形外科の国家試験で出題されやすいところを中心に学習し、得点率の向上を図る。				定期試験 出欠席				
教科書	柔道整復学理論編・実技編、整形外科			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	整形外科 1. 運動器の基礎知識			第1回	柔道整復学 各論 下肢骨折復習			
第2回	整形外科 2. 整形外科診察法			第2回	柔道整復学 各論 下肢骨折復習			
第3回	整形外科 3. 整形外科検査法			第3回	柔道整復学 問題演習			
第4回	整形外科 4. 整形外科的治療法			第4回	柔道整復学 問題解説			
第5回	整形外科 5. 骨、関節損傷総論			第5回	柔道整復学 問題演習			
第6回	整形外科 6. スポーツ整形外科総論			第6回	柔道整復学 問題解説			
第7回	整形外科 7. リハビリテーション総論			第7回	柔道整復学 問題演習			
第8回	整形外科 8. 疾患別各論			第8回	柔道整復学 問題解説			
第9回	整形外科 9. 身体部位別各論①			第9回	柔道整復学 問題演習			
第10回	整形外科 9. 身体部位別各論②			第10回	柔道整復学 問題解説			
第11回	柔道整復学 各論 上肢骨折復習			第11回	柔道整復学 必須問題対策			
第12回	柔道整復学 各論 上肢骨折復習			第12回	柔道整復学 必須問題対策			
第13回	柔道整復学 各論 上肢軟部組織損傷復習			第13回	柔道整復学 必須問題対策			
第14回	柔道整復学 各論 体幹部骨折復習			第14回	柔道整復学 必須問題対策			
第15回	柔道整復学 各論 体幹部骨折復習			第15回	柔道整復学 必須問題対策			

授業科目 区 分	選 択	担当科目	国家試験対策講座		単位数		選 択 必修	必修
					時間数	360 時間		
担当教員	小宮山 潤		受講学科	柔道整復師学科		学 年		3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	金曜日	4 時限	講義室等	3年教室			
	後期	金曜日	4 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標				成績評価の方法				
一般臨床医学を中心に国家試験で出題される科目を複合的に学習し、得点率の向上を図る。				定期試験				
教科書	柔道整復学理論編・実技編、一般臨床医学、衛生学・公衆衛生学			参考書				
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉			〈後 期〉					
第1回	ガイダンス		第1回	国家試験対策 運動学の目的				
第2回	国家試験対策 医療面接		第2回	国家試験対策 運動の表し方				
第3回	国家試験対策 視診		第3回	国家試験対策 身体運動と力学				
第4回	国家試験対策 聴診・打診・触診		第4回	国家試験対策 運動器の構造と機能				
第5回	国家試験対策 生命兆候		第5回	国家試験対策 運動器の構造と機能				
第6回	国家試験対策 代表的な臨床症状		第6回	国家試験対策 運動器の構造と機能				
第7回	国家試験対策 循環器・呼吸器疾患		第7回	国家試験対策 神経の構造と機能				
第8回	国家試験対策 消化器疾患		第8回	国家試験対策 運動感覚				
第9回	国家試験対策 代謝疾患		第9回	国家試験対策 反射と随意運動				
第10回	国家試験対策 血液疾患		第10回	国家試験対策 四肢と体幹の運動				
第11回	国家試験対策 腎疾患		第11回	国家試験対策 姿勢				
第12回	国家試験対策 神経疾患		第12回	国家試験対策 歩行				
第13回	国家試験対策 感染症		第13回	国家試験対策 運動発達				
第14回	国家試験対策 膠原病		第14回	国家試験対策 運動学習				
第15回	国家試験対策 まとめ		第15回	国家試験対策 まとめ				

授業科目 区 分	選 択	担当科目	国家試験対策講座		単位数		選 択 必修	必修
					時間数	360 時間		
担当教員	檜原 康之			受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期	金曜日	3 時限	講義室等	3年教室			
	後期	金曜日	3 時限	授業形式	講義			
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
国家試験で出題される科目を複合的に学習し、得点率の向上を図る。					定期試験			
教科書	外科学・病理学				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回	外科学 損傷・熱傷			第1回	外科学 意識障害・けいれん			
第2回	外科学 炎症・外科的感染症			第2回	外科学 脳卒中			
第3回	外科学 腫瘍			第3回	外科学 第1～2回の復習			
第4回	外科学 ショック			第4回	外科学 胸部外傷			
第5回	外科学 第1～4回の復習			第5回	外科学 腹部外科疾患			
第6回	外科学 失血と輸血・輸液			第6回	外科学 脊柱損傷			
第7回	外科学 滅菌法と消毒法			第7回	外科学 第4～6回の復習			
第8回	外科学 手術			第8回	病理学 染色～変性			
第9回	外科学 麻酔			第9回	病理学 代謝異常～死の判定			
第10回	外科学 第6～9回の復習			第10回	病理学 充血～高血圧			
第11回	外科学 移植			第11回	病理学 進行性病変～炎症			
第12回	外科学 蘇生法			第12回	病理学 免疫～癌の内因と外因			
第13回	外科学 頭部外傷①			第13回	病理学 腫瘍～奇形			
第14回	外科学 頭部外傷②			第14回	病理学 疾病の内因と外因～生物学的外因			
第15回	前期試験対策 第1回～15回の復習			第15回	後期試験対策 第1～15回の復習			

授業科目 区 分	選 択	担当科目	国家試験対策講座		単位数		選 択 必 修	必 修
					時間数	360 時間		
担当教員	飯田秀男		受講学科	柔道整復師学科		学 年	3 年	
実務教員	○	実務経験	柔道整復師の資格を有し、接骨院での臨床経験あり					
実務経験 の運用	柔道整復師としての臨床経験を生かし、将来柔道整復師を目指す学生たちに必要な知識と技術を養うとともに、接骨院での患者に対する接遇や、医療モラルを教育する。							
学期区分	前期				講義室等	3年教室		
	後期	水曜日	3 時限		授業形式	講義		
授業のねらい、目標					成績評価の方法			
国家試験で出題される科目を複合的に学習し、得点率の向上を図る。					定期試験			
教科書	柔道整復学理論編・実技編、整形外科学、外科学概論				参考書			
履修上の 注意事項								
授業の計画(スケジュール)と授業の内容								
〈前 期〉				〈後 期〉				
第1回				第1回	認定実技審査対策 形、受身、約束乱取			
第2回				第2回	認定実技審査対策 形、受身、約束乱取			
第3回				第3回	認定実技審査対策 5分間練習			
第4回				第4回	認定実技審査対策 5分間練習			
第5回				第5回	認定実技審査反省会			
第6回				第6回	国家試験対策 リハビリテーション医学			
第7回				第7回	国家試験対策 リハビリテーション医学			
第8回				第8回	国家試験対策 リハビリテーション医学			
第9回				第9回	国家試験対策 リハビリテーション医学			
第10回				第10回	国家試験対策 リハビリテーション医学			
第11回				第11回	国家試験対策 リハビリテーション医学			
第12回				第12回	国家試験対策 リハビリテーション医学			
第13回				第13回	国家試験対策 リハビリテーション医学			
第14回				第14回	国家試験対策 リハビリテーション医学			
第15回				第15回	国家試験対策 リハビリテーション医学			

令和8年4月1日発行

発行・編集 長野救命医療専門学校
柔道整復師学科

〒389-0516 長野県東御市田中 66-1

連絡先: Tel0268-64-6699